

幼 兒 教 育

第 一 卷 一 月 號 第 一 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

トス一カ一ハ國米
るさ賞激嘆驚史女

書須必三の園稚幼

【十二版】奈良女高師教授・附屬幼稚園主事 森川正雄 先生著 定價二圓八十錢 送料十六錢

幼稚園の理論及實際

【五版】奈良女高師教授・附屬幼稚園主事 森川正雄 先生著 定價二圓八十錢 送料十六錢

保母教育學

【三版】奈良女高師教授・附屬幼稚園主事 森川正雄 先生著 定價二圓八十錢 送料十六錢

幼稚園所 育兒法

【五版】大阪家なき幼稚園長 大阪毎日新聞 附社顧問 橋詰良一 先生著 定價二圓五十錢 送料十六錢

家なき幼稚園の主張

▲唯一の邦文参考書 幼稚園の理論及び實際を體系的に説かれたる唯一の二冊。最も良の参考書である。

▲幼稚園の經營原論 内容は古今の理論内外の實際等幼稚園經營問題を網羅す。

▲保母檢定指定書 縣決定

▲保母檢定唯一参考書 文部當局と打合せ、新定幼稚園令施行規則の教育兒童心理・教授法・管理法を全部網羅した唯一の保母用書。

▲保母養成所の必須書 保母に必要な教育學を詳説女師保母養成所の採用多し。

▲新幼稚園施行規則 による保母に必要な幼稚園並に託兒所に於ける適切なる育兒法を詳述し盡さる。

▲本書も又保母檢定の必須書にて保母並に託兒所經營者唯一の必要参考書。

▲創設者の苦心披瀝 先づ露天に於ける家なき幼稚園を創設し次に自動車及び電車に進みし實況を披露す。

▲六つの家なき幼稚園 現に御經營の六幼稚園の經營法と實際を悉く詳記さる。

▲口繪寫眞二十枚 説明頗懇切。經營、保育狀況明瞭。

東大 京阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區錦町三丁目九番地・東區大塚一丁目三番地
大阪市南區安堂寺一丁目二番地・大阪區大塚一丁目三番地

生徒募集

本科生 四十名

研究科生 若干名

願書受付三月三十一日迄

規則書は貳錢切手封入の

上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長 ソファヤ・アラベラ・アルウキン

東京市外高井戸中高井戸一三三三
省線西荻窪下車直南約五丁

創立以來十五年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、
附近に森あり、野あり、川ありて四時自
然の恩恵を受け、本校の特色とする自然
觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用
の手工等材料豊富なり。



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡 郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼児教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)

- 一、幼児教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、アトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ズ



號一第 育教の兒幼 卷一十三第

—(次 目)—

口繪 暮の街	堀 七 藏(二)
唱歌の選擇	堀 七 藏(二)
フロエベルエデュケイションナルインステテュートリトウレ	宇佐美ケイ(六)
ニングカレツヂ フォアテイチヤース	宇佐美ケイ(六)
幼兒が喜び歌ふ歌	葛原しげる(三)
米歐土産教育展覽會を見て	文學士 多田鐵雄(一六)
郡山市私立郡山幼稚園の自然物應用手技に就て	氏 原 銀(三)
愛兒のために語る(承前)	中村楠雄(元)
歐米に於ける學校給含の現状(承前)	原 徹 一(三)
一月の手技材料	和 田 實(壱)
おはなしポチとお團子	小 野 直(吾)
果樹取扱の草々	大 岩 金(五)
幸吉の旅	岡田みつ(五)

醫學博士 富士川 游先生撰

児童乃教養

全一冊

菊判二百餘頁
 圖畫多數挿入
 正價金壹圓七拾錢
 郵税六錢

兒童をば強く又我々國民の要求に副ふやうに教養するには、現代の科學の知識に基きて合理的にこれを教養せねばならぬ、我が富士川博士を所長とする中山兒童發展研究所は深くこの點に鑑みるところがありて、兒童教養に關する現代の科學的知識の普及を圖るために兒童發展に關する通俗科學發展會を開設し、多數の表紀・圖畫・寫眞・標品等を蒐集し、これを總說・潰傳・論說に徴し、或はこれを自家經驗の所得に照し、器官・榮養・衣服・住居・睡眠・展觀・疾病・異常兒童の部門に分ち、或はこれを内外諸家の論說に徴し、められるものを選びたるもので、まことに現代に於ける兒童發展の科學的知識の精華を集めたるもので、及び兒童教養の職にある方々のために最善の講本であることを信ずる。謹しみてこれを世の母親たるもの、兒童保護の任に當るものと、及び兒童教養の職にある方々

醫學博士 笠原 順道 夫先生 纂著 (改訂第五版)

好評嘖々

育兒カレンダー

横一尺二寸七分
 全三色版圖二十七頁
 正價金壹圓五拾錢
 郵送料金六錢

カレンダー式の
 新様式の育兒書であつて従來出版されてゐる育兒書とはその編纂の方法を全然異にして

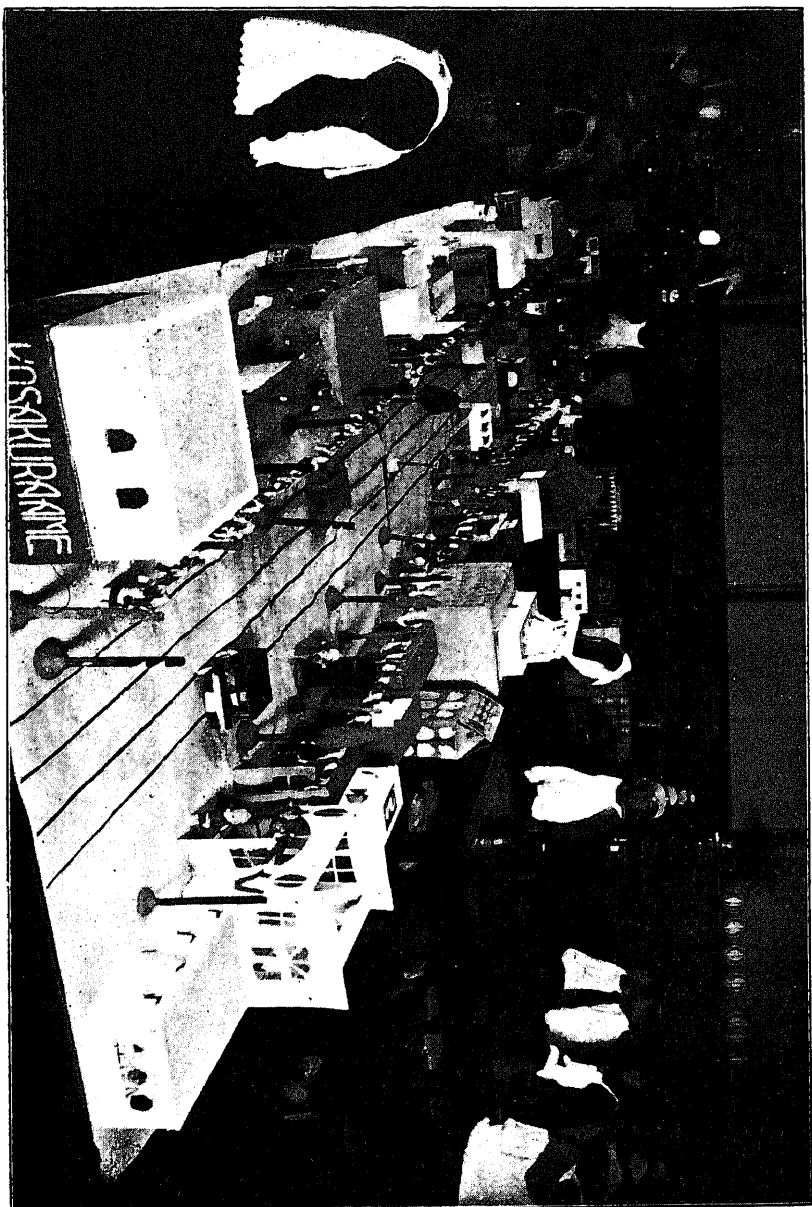
様式
 内容
 印刷

カレンダー式の
 新様式の育兒書であつて従來出版されてゐる育兒書とはその編纂の方法を全然異にして
 満一歳までは各月齡に一葉づ、満二歳から満十五年までは各年齡に一葉づ、精巧なる三色石版圖にて身體發育を圖示し各月齡、各年齡に各一頁づの精神發育榮養方法、保育の諸注意を表式に詳述してあるべき空欄を備へてある。

印刷は鮮明且、體裁優美であるから書齋、診察室の裝飾として妙である。

東京市本郷區本富士町 發行所 克誠堂書店
 電話七六一七

東京市本郷區本富士町 發行所 養正書院
 電話一八七〇



幕の街

東京女高師附属幼稚園山の組

生徒募集

●募集人員 六十名（来る四月入所せしむ可きもの）

●出願期日 来る三月二十日迄

規則書は貳錢を同封して申込まれたし

目白幼稚園保母養成所

所長 和田 實

東京府豊多摩郡落合町下落合一三三八番地

省線目白驛下車八丁目目白文化村入口

西武線中井驛下東北方丘上へ五丁

武藏野線推名町下車東南方へ四丁

謹んで昭和第六年の新正を賀し奉る

昭和六年一月元旦

日本幼稚園協會

役員一同

幼 児 の 教 育

昭 和 六 年 一 月

人 間 教 育

人間を人間へ教育しつつあるといふことは、われ等の、一日も一刻も忘れてならないことである。また此の本念に於てのみ、われ等の日々の業務が、ほんとうに意味づけられる。或は、この故にこそわれ等の努力が生命づけられるといふものである。

教育の必要性を、それ／＼の方面と部門とに於て、いろ／＼に主張する論もある。しかし、われ等の責任感の出發も歸結も、此の教育太本の自覺によつて、始めて嚴かである。幼児と俱にあそび暮しつつ、此の人間教育の嚴かさ生きるもの、それが幼児教育者である。

唱歌の選擇

堀 七 藏

二

一

前々號に於て現今幼稚園に於て多く選擇せられてゐる唱歌の歌詞に現はれたる觀念調査の大要を説明したのであります。是等の歌詞には幼稚園の園兒にとつて不相當に難解のものが少くないから吾人は幼稚園唱歌として作歌者に對し、今一層幼兒の生活内容を基調となし、幼兒の共鳴するが如き材料を採擇し、幼兒が容易に理解し得る作歌を希望せざるを得ないのであります。作歌者の興味本位ではなく、作歌者の力量を平易に表現して、幼稚なる者も容易に共鳴して作歌者の情緒に浸ることが出来ることを理想とせねばなりません。これと同時に幼稚園に於て選擇する唱歌は幼兒が理解し共鳴し、之によつて幼兒の感情意志を陶冶し得るものでなくてはなりません。徒らに難解な歌詞のものでは如何に高尚なる歌曲と雖も、幼兒教育の價值効果は甚だ貧弱なものであります。成るべく平易にして趣味ある歌詞の唱歌を選擇せねばなりません。如何に高尚な趣味に富む歌詞でも、幼兒に理解し得る程度のものでなくては

なりません。多くの場合、保姆や教師がすぎであるからといふ條件で幼稚園唱歌が選擇せられるやうであるが、これは甚だ不適當な考であります。成程教授する教師が大に共鳴する歌詞ならば、たとへ幼児にとつては難解でも相當に教育的効果を收め得るには相違ありません、教授者がいや／＼ながら義務的に教授するやうでは、如何に幼児の程度に合致してゐても教育的効果の少いことは單に唱歌に限つたことではありません。殊に唱歌に於ては情操を陶冶し、心情を快活純美ならしめることを目的となすものであるから、保姆教師が十分共鳴し、大にその趣味に合致した歌詞の唱歌でなくてはならぬこと勿論であります。しかしこれが唯一絶對の選擇要件ではないことを考へねばなりません。要は幼児の教育材料としての唱歌、その唱歌の主要部をなす歌詞が幼児に適するか否を不問に附するが如きことは甚だ誤れるものといはねばなりません。それで幼稚園唱歌は歌詞も樂譜も共に平易で、幼児の興味に合し幼児の程度に適し、幼児の心情を快活にするやうなものでなくてはなりません。

一一

今日小學校に入學す 兒童につき既知の唱歌を調査すると、いはずとも幼稚園保育修了の者は最も多くの唱歌を知つて居り、それが何れも程度の高いものが多く、しかも必ずしも幼児が相當に歌ひ得る程度ではないのであると申します。家庭から直接小學校に入學する者には、家庭に於て母親より唱歌を教

はるものは稀で、多くは兄弟等の唱歌を不知不識模倣するものであるから、これまた程度の高いものが多く、出来ばえもよくないのであります。しかしこの方は兒童が聞眞似のものが多くから、自然程度の高いものは模倣が困難であり、幼兒の興味にも合致しないが爲に、比較的に程度の高いものが少いといふ現象を呈してゐます。所が幼稚園では程度の高いもので、幼兒にはとてもこなせないものでも保母より教へられるが爲に、却つて程度の高いものをまづ練習してゐるといふ有様で、小學校に於ける唱歌教授上支障を來すことが多い。とは小學校唱歌教授の經驗者の言であります。確かに幼稚園に於て、小學校唱歌が程度などを無批判に教授せられることが多いやうであります。そのために悪い癖がつくといふが如きことがあれば、折角幼稚園で唱歌を教へたことが却つて骨折損となることも多いと思はれます。何も苦しんで幼稚園に於て、小學校歌を教授せねば幼稚園教育が行はれない譯でもありません。また小學校歌を教へるから幼稚園にお入れなさいと、廣告的な態度に出る必要もありません。幼稚園に於て小學校歌を教授したからとて、小學校と幼稚園との密接な連絡をなすものでありません。却つて小學校と幼稚園との適切な連絡を破壊することになります。幼稚園に於ては幼兒に適當な、平易で幼兒の興味に合し、且つ優雅で心情を快活になすやうなものを教授し、以て一面には聽覺器官發聲器官等を練習して將來教育を受くるに足る十分な基礎を建設せねばなりません。

幼稚園に於て選擇すべき唱歌は歌詞がよく幼兒に理解し得られるものたるのみでなく、曲譜も幼兒の程度に相當せねばなりません。勿論曲譜は歌意とよく調和せねばならぬのでありますが、曲譜が幼兒の程度に合致しないやうでは幼稚園唱歌としては不適當であります。幼兒の音域は甚だ狭いものであり、幼兒の音程は甚だ不確實であるから大に練習せねばならぬものであります。それで幼稚園唱歌としての唱歌は高低の至つて容易で、簡単な音程であることが肝要であります。また長短やリズムは幼兒が調子づいて覺え易いものでなくてはならず、拍子も $2/4$ 拍子又また $4/4$ 拍子のものでなくてはなりません。それで大人が容易でも幼兒に六ヶしいものが多いことを十分考量せねばなりません。世間には自分がすぎであるからといふ條件を、唯一の標準となす人がありますがこれは禁物であります。

フロエベルエデュケーションショナルインス
 テテュート トウレーニン グカレッヂ
 フォアティーチャース

女子學習院教授 宇佐美ケイ

(フロエベル教育協會教師
 養成大學)

ロンドンの南西區ロウハンプトンにある有名な幼稚園小學校の先生養成所である。ロンドンも此處まで來ると實に閑靜で乗合自動車の往復の他は餘り人通りもない、門を這入ると雜木林が廣く續きはるか 校舎が見える平坦ではあるが三十三エ

ーカーの廣さといふ、かく廣い地所になると何處からが他の所有地との境界かと思ふほど目もはるけく森から牧場とつゞくので全く別の世界で住む心地がするであらう。眼界が廣く風光明媚の點に於て他に餘り多く類を見ない。生徒二百五十人の中五十人が通學で他は全部寄宿してゐる。校長はミスローレンスといふ六十歳以上の老婦人である。校舎は本館の階下は校長の居室を中心とした

客間、事務室、食堂等で階上は學生の寢室、勉強室になつて居り二三の講義室があるだけである。はるかに離れて最近建築された別館がある其處で自然科学教室、手工、體操、唱歌の教室がある。最初木工教室に案内されたが、丁度授業の終つた所で残念であつた。如何にも工場らしい設備が出来て居る、大きい種々の材料が澤山あつた。次ぎの手工室には紙細工の箱の類、鉛筆立てやうのもの紙挟み等、皆立派な實用品である。箱の形、或は模様等皆生徒の意匠で各様の形の者が澤山出来てゐた。例の草（前回説明した）で種々の美しい籠や袋が澤山出来てゐた。一つの戸棚には自然物を應用して實に面白い奇抜な玩具が澤山出来てゐる。松かさを主體にし、それに椗の實を使つて面白い人形が出来てゐる。椗の實をつないで蛇が出来てゐるが、なるほどしつぽの方を持つて少しふると身體をくねらせるところ正しく蛇である。そ

の他實に澤山の工夫がなされてゐるには感心した。膳先生を思ひ出し、先生から送られた具のちひな様を送る事を其手工の先生に約束した。次に粘土の教室はまた實に大した設備である。ポツタリー（壺ツボ）をこしらへる遠心機が備えてあり棚の上に澤山のツボが出来て並んでゐる。

次に圖畫教室へ入る。新學期の學生が圖案の稽古最中で、皮細工の模様の考案といふ事であつた。如何にも廣やかな明るい部屋で庭に面して全部硝子戸がたててある。先生が種々生徒の成績を示されながら、時間が少ないので心せかれるといつて居られたが、一週二時間で二ヶ年百六十時間、他の手技も同様といふ事である。

自然科学の教室、植物學の教室には「きのこ」の研究で澤山の菌類が集めてあつた。實物の他に種々の毒菌の美しい印刷の糸が壁にかけてあり、皆俗名、學名、採集地が記入してある。これ等は

前々から此處の學生が各地で採集したものを寫生しプリントにしたものであるといふ。紅葉の種々の葉が集められて瓶にさしてあつた。(十一月月上旬に參觀したのであつた)

動物教室は僅かの鳥の剝製が並べられてあるだけ、學生研究の結果の鳥の巢(各種)の寫生畫が澤山かけてあつた。今鳥類が研究の主題になつてゐるといふ事である。

新館を出て更に遠く離れて新築の幼稚園を見る。生徒の實地練習の爲め最近設けられたものである。此學校生徒の實地練習所は別に幼稚園から小學校に續く大きい學校がある。其處は數回參觀して大に得る所があつたので別に記述することゝする。

幼稚園は三室から成り設備は簡單であるが各室數人づゝの極めて少數の幼兒が或はお話に聞さいり、或は遊戯をしてゐる。一つの部屋では文字を

書き畫を描いて居つた。何れも靜かで、たのしもうである。皆相當上流の家庭の幼兒であるといふ事で、朝、車で送られ半日を此處で過ごして迎へられて歸る。

此處で面白いものを見た。一人の男兒が麥の穂を一つ手に入れたのを幼稚園に持つて來て小皿に水をいれ厚紙をしき、其上に穂のまゝでねせておいたものが、可なり寒いロンドンの十一月の半ばにお部屋の温かい爲めに緑の小さい芽を出した。厚紙は常に十分の水氣を含む、麥の種子は適度の濕氣と温度とで發芽したわけ。勿論先生の指導されたものであらうが面白いと思つた。この成績をえた子供の満足とほこりは大したものであらう。其子供は嬉しそうに、多分めつたに訪問されない校長の處へそれを持つて來て見せ切りに説明して居つた。校長さんも大層ほめて居られた。可愛い子供たちは交る／＼校長さんに握手の禮をす

る。

更に本館に歸つて生徒の寢室一つ、教室二つを
見た。寢室は一人一室で餘り廣くないが心地よく
整頓してゐる。一教室では歴史の教授、一つは英
文學の講義。可なりぎつしりとつまつて何れも四
五十人づゝ講義を聞いてゐた。その他圖書室、食
堂残りなく一巡して校長はこれで満足かとたづね
たので、厚く禮をのべ、これ以上いそがしい校長
の時間をとる事をあそれて辭した。老齡の校長が
この廣い校庭をことに非常に風の強い日に案内さ
れ長い時間親切丁寧に私の満足するまで説明の勞
をとられたことは實に有り難い事である。

生徒はハイスクールを卒業の上此處に三年間學
ぶのであるが我小學校、幼稚園の先生と其素養の
點に於て可なりの經庭があるわけである。

ミスローエズスリール

私立の晝間學校としてロンドン市の中心にある
有名な學校である。ハイドパークの近くにある數
階建ての立派な校舎である。生徒が二百五十人、
先生が二十一人、幼稚園からハイスクールまであ
る。

幼稚園は五歳から六歳までの幼兒二十五人、主
任の先生一人に補助が二人、舊式の時間割でして
ゐる。満五歳からであるから、先きのノールランド
ブレース、スクールの中間級に相當するので、こ
の時間割は當然かも知れないが、最も舊式の者の
一つとして参考に記載する。

	九時	九時	十時	十時	十時	十一時	十一時	十二時
	半	四十分	十分	十五分	十五分	十分	十分	半
月	祈禱	讀本	訓練	歴史	休み	算術	詩歌	佛語
火	同	同	圖畫	同	地理	博物	同	
水	同	同	習字	同	物語	唱歌	同	
木	同	同	同	同	算術	唱歌	同	
金	同	同	同	同	同	聖書	同	

私が參觀した時は木曜日の十時頃であつたが、丁度書き方の時間であつた。大きい子供は其の日の午後ハイドパークで運動會が催されるといふ事を一つの手紙に綴つて先生になほしていたゞいてゐる。先生が模範文を書いたのを示されたりする。子供は非常な熱心で覺束ない手つきで一生懸命書いてゐる。切り目の時間に先生は私に、子供の自然研究に供する材料を示された。それは先生が如何に幼児の自然觀察方面に苦心されてゐるかを知るもので大に感服した點である。その一つは部屋にはいるとすぐ眼に入つたちたまじやくしの飼つてある硝子器で勿論金魚も同棲してゐる。次は蟻の飼育箱を先生が見せて下さつた。一面硝子張りのうすい簡単な箱で砂がはいつてゐる。その中に赤蟻の一家族が飼はれてゐる。卵子、蛹、働蟻、女王、とちやんと硝子面から見える。箱の隅から蜜と水とを時々そゞぎこめばよいのである。同伴の

英婦人これは實によい、日本へ一つ買つて歸つたらどうかといはれたが、日本にもあると思ふといつて拒んだのは、まだ見ないがたしかにあるべき筈と思つたからである。しかしまだ私はこの種の試みをしてゐない。次は蟻の一種にキャベツを與へて飼育してゐる。方錐形にして紙筒の中に藪を作つてゐるものまだのものが十個ほどある。それは皆子供の所屬がさまつてゐて所謂自然研究として日々觀察させてゐる。更に驚いたのは蛇の飼育であつた。

庭としては何處も同じアスファルトのせまい屋外體操場があるだけ、蟻の住む宿もなく、オタマジャクシのかへる水たまりもない。かうしなければこれ等の觀察は出來ないのである。しかしこれだけの觀察が私共の間に出來てゐるかを顧みて恥かしいと思つた。自然の觀察は自然のまゝにとすまして居つては自然は私の前まで歩いて來てはく

れず、また警鐘も打つてはくれぬ、おたまじやくしはいつの間にか蛙になつて仕舞ふ、やはり此幼稚園の先生がかうせねば觀察の出来ぬ爲めの努力と氣まめさを私共も持たねば幼稚園保育項目に加へられた趣旨の全うされる事はむづかしい事と思ふ。

佛語は六歳以上は佛蘭西人の先生で六歳から八歳児までが一緒、幼稚園では五歳児が英國人の先生から如何にも面白そうに、數、曜日、月、などを教へられて居た。唱歌の時間を見たが歌ひながらきつと動作（簡單であるが）をつけさせて居つた。特に耳の練習として三和音の聞きわけをさせ各自にアーとかオーとか發聲させる。自分のすきな音を發聲し快いハイモニーを幼兒が味つてゐる。午後のハイドパークの運動會を見物した。中々大仕掛のものを校長初め晝前の先生方とは別人と見ゆるすつきりした美しい姿で澤山の見物人の中

で盛に活動して居られた。

口 繪 説 明

第二學期を通じての連續作業であつた。九月の二十二日に着手して、十二月の二十三日に一切を完了し、各兒に持ち歸らしめた。お室が狭いので今まではお室のあの隅に一部落、こちらの棚の上に一部落、ピアノの上に一街と云つた有様であつたのに、最後にまとめて並べて見たら、見違へるばかりの立派な街となつたのには自分ながら驚いた。

子供の拵へた各々の家に、實習科の生徒の工夫した種々の家、それに暮の街飾り、日本橋等加へられて立派な街になり終せてゐる。

先づ向端から見物すると、學校あり、木屋あり、牛乳屋あり、呉服屋あり、公衆電話あり、玩具屋あり、洋服屋あり、靴屋あり、おしる粉屋あり、その間に所々に交つて個々の住宅あり、又三越あり銀行あり郵便局あり病院ありと云ふ工合、郵便局の前のポストでは一人のキューピーさん今しも投函してゐる有様。

通りには電車、自動車、荷車、花屋、はては牛乳屋の車まで通り、人道、車道の設けまであり、街路樹あり電信柱ありゴーストツブもありて交通巡查、その整理に當る。

町を行くキューピーさん二三、暮の街飾りも賑々しく、恰も市井の一部を持ち來りし如き感あり。

幼児が喜び歌ふ歌 (2)

葛原 しげる

「野山のこらず 花の雲」

「野山 一面 花の雲」

この二句は、同じ事をいはうとしてゐるのだが、どちらが、満開の櫻を、よく形容してゐるか、と考へれば考へるだけ分らなくなるが、後者の方が少し優れてゐると思はれるので、その句にしようとしてみたが、しかし、この句は、先輩の作の中に昔出てゐる句であるので、そのイ、チ、メンの韻に伴ふ多少の冷たさよりも、ノ、コ、ラ、ズの明るさと、ノヤマノコラズの音の面白さをとつたことである。その第二節に散る櫻を歌つた句に、

「風に吹かれて お池を越えて

櫻 どこまで 散つて行く」

としたのは少と由來があり、出典がある。私が初めて、愉快な訓導生活を送つたのが、約二十年前、今も同じ所にある東京の九段下の牛ヶ淵にある精華學校の初等科であつて、運動場から直角に見える清水門の土手に二三株の古い大きい櫻があつてお濠に臨んで満開に咲くや、少しの風にも、花は吹雪に散つて、水に浮び、水を越えた。中には、學校の運動場にも散つて來た。幼稚園の砂場にも舞ひ込む。すると兒童は、蝶々だといつて、その花片を追ふし、少しでも強い風に吹かれた花片は、どこまでも高く舞ひ上つて、九段坂の方へま

て飛ぶかと思えるのであつた。その頃から今に勤
續の唱歌擔任の坪内せん子先生は、和歌の好尚豊
かな方で、櫻の歌を一首示された事がある。その
想を、私は、此の唱歌に貰つたのであつた。随分
昔の話であるが、その間に、それらの櫻は枯れた
り、折れたりしてしまつた。それだけ、春來る毎
に、花咲く毎に、この一面は、他の何處にでもあ
る光景ながら、清水門の櫻を愛惜する情を深め、
日本の花を愛する心を高めてくれる。それとは別
に、小松耕輔氏の曲が、まことに高雅であり、ま
た、暗朗、溫和でもあるので、よく歌はれ、よく
踊られてゐるのが、なつかしい。(「大正幼年唱歌」
第一集、「さくら」)

○
あれ 飛行機が とんで來る
あんなに 早く とんで來る
もう あれ あそこに

とんで來た
今 すぐ 見ないと かくれます

此の一節だけでは短かすぎるから、これを第一
節として、第二節もつけてくれとの御希望が、さ
る幼稚園からもあつたが、第二節をつけても、そ
れを歌つてゐる間に、その飛行機は、速力が速い
んだから、見えなくなつてしまひますから、これ
だけで宜しいのではありませんでせうかと、御返
事したら、

みる／＼中に、ちぎ、とんでいつて、
かくれて しまつた。
といふ事を、そのまゝ歌つてくれとの仰せ。とこ
ろで、又、私の方では

飛行機に限らず、犬でも、馬でも、汽車で
も、お正月でも、
來るまでが楽しみなので、

過ぎてしまつては、つまりません

といふと、又、

それは、大人の考へ方で、コドモは、來てしまつた——すんでしまつた。あゝ面白かつた。といつて満足してゐる。飛行機も、かくれてしまつた。あゝ速かつた——といつて、十分に満足する、との仰せでしたから、

なるほどとも思つてゐる。でも、なほ、あんなに速い飛行機ですから、何とか彼とか、つべこべ、繰り返して唱はない方が、大定遠く、一思ひに飛んでゐる飛行機には、ふさはしくも思はれてならないので、中々に、想が、まとまらない。

どなたか、何れかに、決定させて下さい。

（「大正幼年唱歌」第一集の「飛行機」）

○

「幼児の世界には

「ゆらぐ」

といふ言葉は、ございません、その代り

「うごく」

と申しますから、今のお唱歌も

「蝶々が舞へば 菜の花うごく

うごくな 花よ」

として頂きたうございますが……」

と申されたのは、大正三年の夏、私共作者三名が、安井哲子先生が主事時代のお茶の水の女高師附屬幼稚園での、日本全國の保育者大會に出て、出版前に、作品を賞演して批評を乞うた時の、ある方の御勧告であつた。

「しかし「ゆらぐ」のと「うごく」のとは、全然、事柄が違ひますし、前の言葉の有つ音の美しさは、後者の陰鬱に比べ物になりませんから

……」

ともいつたのだが、曲の方では、どちらとも同じア

クセントである上、凡てコードモ本位といふモット
に頼つてゐる私共ゆゑ、のち、公刊する時には
「うごく」にしてゐいた。而も、それを歌ひ、歌は
れるのを聞く毎に、

「うごくのではないんだのに……」

と、残念でたまらない中に、十年目、震災で凡て
の本と共に、出版元に於て、大正幼年唱歌の紙型
も焼失してしまつて、全然新しく、版を組み直す
のを幸に、作曲者とも熱心に協議して、原作どほ
り「ゆらぐ」に戻してしまつた。

此の事を、東京保育協會の第五周年記念大會の
時、一寸、お話したら、さる先輩が

「ゆらぐもよからうが、ゆれるが善いではない
か」

といつて下さつた。しかし、地上三尺の所で菜の
花が風に吹かれるのは、どうしても、ゆらぐので
あつて、ゆれるといふ程、緩やがなく、しなやか

でない。どうしても、「ゆらぐ」のである。そし
て、一面には、此の如き事で、語彙を少しでも多
くしてやりたく、歌によつて苦もよく覺えしめた
いものだとも考へてゐる。かくて、震災後の、
「蝶々が舞へば菜の花ゆらぐゆらぐな花よ」
となつてゐる次第である。



米歐土產教育展覽會を見て

文學士 多田 鐵雄

去る十一月二十八日から一週間に涉つて、京橋區昭和小學校に於て催された教育展覽會を觀た。

先づ第一に強く心を打つたものは、これほどの豊富な資料を僅か八ヶ月の米歐旅行の土産として集めて來られた校長服部翁氏のなされた苦心の跡だ。一つ一つ、どれとして深い意義を持たぬものとはない。デクロリイ法のものあり、モンテソリー法のものあり、ルソイ子供の家のものあり、ペスタロツチフレibel、ハウスのものあり、インデイヴイジュアル用具ありで、殆んど凡ゆる幼稚園並びに小學校の教育に關する品目を網羅したものである。今、自分はこの展覽會から氣付いた

こと、又實行したことを一つ二つ述べたい。

(一)

先づ考へられたことは、幼稚園と小學校の聯結である。元々、幼稚園教育に従事してゐる自分としては、小學校教育に對しては門外漢であるし、その上、専門たるべき幼稚園教育に於ても淺薄な知識經驗しか持合せて居ない者故、一言もそれに就いて述べる資格はない筈だが、現在、唱導され批判されてゐる教育の諸主義と、今眼前に在る、その諸主義に基いての各種の教育品を併せ考へる時、あまりにも杓子定規的な文部省の小學校令並

びに法規が思はれるではないか。明治初年の嚴格主義、主知主義の歐洲の翻譯法規が、今にまでさしたる變更もなく在續してゐるとは、何としても矛盾ではあるまいか。幼稚園教育は之に比すれば自由に新らしい空氣を吸つてゐる。一例を取つて云ふも、幼稚園時代に午後二時まで保育を受けてゐた子供が、小學校へ上ると、當分は三時間限で放課になる。多くは指導者なしで残りの半日以上を過す子供が、何を覺えるであらうかは自明である。その對策として、東京府の朝原氏は、放課後の子供を幼稚園又は託兒所が引受けて學習を手傳つてやつたりすることを提唱して居られる。これ實に當然すぎる程當然なる提唱であるが、この問題は、むしろ小學校教育の當事者が、もつと積極的に改革の道を計るべきではないかと思はれるのである。

(二)

次に眼に付いたものは米國兒童の作業である。陳列されたものを見るに、電車が出來てゐる。長さ二間、幅五尺程のが、細長い木材の骨組と、ポールの紙の打付けとで手軽に出來てゐる。至極簡單ながら、窓もあり、運轉臺もあり、車掌臺もある車内には十脚位、子供の腰掛が坐席として据ゑられてある。側らには交通整理器も出來てゐる。即ち兒童は電車に就いて觀察を下し、之を共同作業によつて自身で製作し、最後に或ひは客となり、運轉手となり、交通巡查となり、或ひは、切符を又製作して車掌となつて、現實の社會生活を遊戲の中で味つて行くのである。この作業中心主義生活即教育主義の可否は論を俟つまでもないが、自分がかゝつて氣付いたのは（その主義自體に就いては）ではないが、いかにも規模が大だと云ふことであ

る他の室に陳列されてあつた米國の兒童の繪を見ても感じた處であるが、米國の兒童は日本の兒童に比して、大きなことを考へるのではないか。即ち悪く云へば大ざつばであり、よく云へば眼の付け方が大きいと云ふこと。今、自分はこゝで國民性としての米國人と日本人とに就いて、更めてその證を言及して行かうとは思はない。それは識者の夙に知る所である。が今、實際に、保姆と幼兒とを眼前に置いて考へても、保姆は幼兒を大の方に導かびないやうに思はれる。即ち手技作業をなす場合、第一に、幼兒の奔放な着想を整理して行く任務の保姆は、知らず知らず、整へやすい細密の方向に許り進んで、幼兒の大まかな性質を大まかなまゝで指導すると云ふ方面が忘却され勝ちになるのではあるまいか。手先で器用に、電車や自動車を作るに就いては立派な方法を案出する保姆も、いさなり、幼兒自身達がその中へ入つて遊ぶ

ことの出来るやうな、大きな自動車なり電車なりを作つて見やうとする空想は持つまい。然も、かかる空想こそ幼兒の世界獨有のものであり、この空想の實現を期する熱望を幼兒自身が諦めてしまはぬやうにし、又、その熱望を潜在から意識に引出してやつて、大きなものに眼を向かせることこそ、幼兒教育の一大意義ではなからうか。

勿論、直ちに考へられることは經濟問題であらうが、幼兒は何も完備せるものを要求はしない。たゞ一本の繩に、鈴を付けたものだけであつても幼稚の空想がそれを電車と考へ得れば、それは立派な電車であつて、その程度での製作をするとしたならば、規模の大なることは何等經濟的方面で行き詰ることはないと思はれる。

それに關聯して思ひ出されるのは先達で、手技講習會に於て卜部たみ氏が示された「市街遊び」(家を作り、ビルディングを作り、道路を作り、

並木を作り、交通機關を作り、それを實際あるやう並べて、遊びながら市街に關する知識を習得する)である。當時非常に感心したものであるが、今にして難癖を無理に付けるとすれば、以上述べた點がいくらか當てはまる處があるのではないかと思はれる。

(三)

最後にこの展覽會で見て直ちに自分の園に取入れたものがある。それはベスタロツチフレイベル會考案の、ビムビム、シテル、デイウアーである。これは各幼兒がボール紙製の時計を手にしてゐる。保姆は小さな鐘を持ち、時計の打つのになぞらへて、之を打つ。幼兒は、保姆が「さあ、今時計が鳴ります。何時を打つか、よく教へて、打つた時間の處へ針を廻して下さい」と云ひながら打つ鐘の音を數へ、針をその數の處へ廻すのであ

る。

保姆が幼兒に數の觀念を與へさすに就いては種々の方法があるが、多數の幼兒に同時に、而も興味を持たせつゝ指導し得る方法の優れた一つとして考へられる。これによつて數の觀念を與へると同時に、比較的日常生活に必要な時計の知識も與へることが出来るのである。些かでも參考になればと思つて、その方法を付記させて戴く。

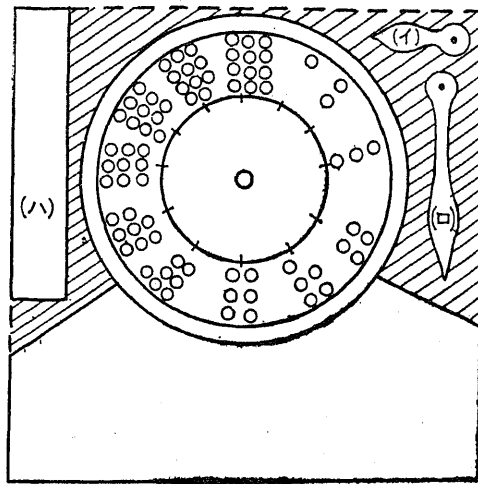
猶、展覽會に就いて述べて見たいことは多々あるがそれは又後日を期するつもりである。

(十二月五日記す)

付記

ベスタロツチ、フレイベル會考案のものは製品となつて販賣されてゐるのだが、これは幼兒自ら製作した方がいゝと思ふ。又同會考案のものは時計の時間が一から六まで、あるし、又針も短針一

つしかない。が當圓の大きい組の幼児は今は、例
外なしに二十までは數へるし、實際の時計に對す
る觀察も可成に出來てゐる。故に製作に當つては



數も十二とし、針も長針、短針共に備へた。

ボール紙の最も薄い、片面白地の物を選び、八
つ切から四個の時計が取れるやうにした。勿論厚

い畫用紙の方が切抜くに當つて幼児には樂である
から、それでもいい。紙に謄寫版で次のやうに刷
る。

時計は置時計の型である。時間は文字數字で表
はさず黒丸で示す。(イ)(ロ)は長短針である。

(ハ)はこの時計が立つやうに、後部から當てるも
の。切抜き終つたら、各自に好きな色で色彩をつ
けさせ、白丸を黒く塗りつぶさせる。次に長短針
を、開き鉦でゆるく留めさせる。

當分は長い針を十二時のところへ固定させて、
あいて時間の遊びをする。(以上)

郡山市立郡山幼稚園の

自然物應用手技に就て

氏 原 銀

此記事は、福島縣郡山市私立郡山幼稚園の松山政治氏より、今度同園の自然物應用手技の細目を編製せられしを贈られしもの、之れを見るに其配當排列のよく殊に其緒言に自然物の意義并に、保育者の用意等に付周到なる注意を述べられたる事、保育上大に參考となるものあり、依て、之れを本誌上に轉載の事を松山氏に請ふに、謙遜せられて容易に之れを旨んぜられざりしも、強て御許るしを得て茲に差出す事とす。

自然物應用手技に就て

一、「自然と一致することは子供の榮譽である」とスタンレーホールはいつたが至言である。豊富なる本能生活を營む幼児時代に、活動場所として悠大なる自然界を與へることは、彼等にとつて此上もない幸福である。

一、花開き鳥歌ふ春 緑鮮かにしたたる夏 燃ゆるばかりに紅葉する秋 根幹の樹立する冬木立の春夏秋冬を通して、子供を園外に連れ立ち、自然に親しましめ、自然の趣味を味はしめ、自然を友とせしむる保育の、如何に賢くして如何に裨益

多きことであらふぞ。

一、自然界の恩恵に浴して、幼児の心身を自然的に發育せしめ、幼児の性情を自然的に涵養せしむることは、實に子供の本能に一致したる方法である。これぞ一種の自然物法とも言ふべきものであらふ。かうした方法を計劃する人こそスタンレー・ホルの『榮譽ある教育者』といはねばならぬ。

一、由來我國の自然界は、世界の樂園とも稱せらるるだけあつて、山川草木悉く美麗にして優雅である。幼児教育者の正に師としてつかふるに適して居る。よろしく之れに近づき、須らく之れに親しむべきであらふ。何を苦しんでか、人工的な文化に局限せられ、狹隘なる園舎に閉ぢ籠もり、技工的な保育に毀頭し、高價なる器具に安心し、虚飾せる玩具に満足して居るのであらふか。

一、幼児教育者は子供を驅つて自然の天地に遊

ばせしめ、自然の風物に接せしめ、自然と融合するだけの交渉を持たねばならぬ。よしんば其すべてを取り入れる事が叶はずとも、せめては此自然物を配して、子供の師友とし、子供の遊び相手とする事に心がけねばなるまい。

一、先哲は『凡てを子供に學べ』といつて居る。之れ亦味ふべき言である。一度自然物を子供の前に提供して見よ。彼等が持つ想像生活は、極めて自由に而かも無限に次々と展開して、彼は愛する自然と親しみ適したる自然と近付き、いとも巧みに之れを使ひ、喜んで之れを弄び往々にして奇想天外より下るの觀を持たしめ、大人の我々をして感嘆せしむる事甚だ多いのではないか。

一、子供の自然的なる本能は、好んで高きに登らんと企てる。之れに適應せしめんが爲めに我々は「滑り臺」を作つたので有る。我々の目をかすめても樹木によぢらんとあせつて居る此本能を捕

へて「榎登り」を我々は與へて居るではないか、其本能に即し其心理を捉へて、自然物を彼等の師生とし彼等の友として提供するものが即ち自然恩物であらねばならぬ。

一、我等の幼時を追懷して見るがよい。一本の草、一塊の土くれ、又缺けたる貝殻、ありふれたる小石、皆悉く我等の友であつたのだ。或は時に笛となり、或は時に團子と化し、或は皿として用ひられ、或は小錢として使はれたのである。斯の如く一切の自然物は我等の友であり我等の師であり、又我等の寶であつたのである。

一、かかる追懷より、自然的恩物は發見されるに至つたのである。而かも其發見の中より愕然として起る、其恩物を分類し、其友とすべき方法を探究し、更に幾多の考案をめぐらし、重ねて之れを我保育上に活用せしめ、幼兒の手技の一として改めて我等に提供してくれた人がある。それは大

阪保育界の古老、膳眞規先生であつた。余は先生の實際を知り、先生の抱負を求めて今更ながら先生の卑見の偉大なるに敬服せざるを得なかつたのである。

一、自然物を手技とする事は誠によい發見であり、實に尊い仕業であつた。如何に素朴な自然物でも、天真な子供に其儘任せておく時は、或は單調に陥り易く、或は遊びに飽かれて仕舞ふであらふ。茲に於て豊富なる思考力を以て之を捕捉し、之を調節し、或は之を整頓して更に一段の變化を持たしむる事が必要の事と存ずる。之等の衝に當つて變化の妙を保つべきは保母の任務ではあるまいか。これ却て子供を喜ばしめ、子供を満足せしめ、子供を開發して行く所以である。

一、我が幼稚園 一度膳先生の高説に敬服するや、先生の考案に則り之を實現せんと希望せし事多年であつたが、元來の魯鈍、不敏容易に手を下

すの機會なく、荏苒今日に及んで居たが、期漸く熟し未熟ながらも此細目を編むに至つたのである。

一、子供の潤澤なる自然に對する感情と保姆の緻密なる研究的の努力とは相交錯し、次から次へと自然物遊びの種類も擴大するものであり、又其方法も整理して行かねばならぬものである。今は只概括的に之を季節に分類し之を精粗の順に追ふて排列して行つただけのものである。

一、幾分大人の巧利的な考案が、交錯して居るかも知れぬ。此計畫に發心してから日尙淺いのであるから、一々實際に適用して見る機會に到着して居ない。之れが爲めに或は往々机上の空論に墮して居る點がないでもない。併しそこは追々に完成せしむる事を覺悟し、今暫く此儘にして我慢して置く。

一、自然物應用の手技即ち自然的恩物を實施す

る爲めには、度々園外保育を行ふ必要がある。今迄區畫され、局限せられたる狹隘なる園舎よりぬけ出て彼悠大なる自然界を我保育室とする覺悟がなくてはならぬ。雷に安閑として事なきをのみ希ひ、立案的なる方法にのみ閉ぢこもつて消極的思索に陥る事は大の禁物であらふ。

一、足一度園外に出て、開濶なる自然界に親しまんか、言はず語らずの間に日光浴の恩恵にひたられる、幼兒の健康は之によりて増進を期せられ幼兒の智能は之によつて發達を遂げらるのである。世間恐らくかくも安價にして而かも便宜なる遊びの、又とあらふかと思はるる。

されど幼兒を門外に連れ出す事は、其監督の上に將た其指導の上に容易ならぬ事である。細密なる注意と多大なる努力とを要すべき事は當然である。而かも一旦採取し、蒐集した自然物の處置に付ては、保姆は崇敬なる念慮を以て之れを取扱ひ

或は各方面に活用し、或は永久に貯藏し置き、隨時隨所に役立たせるだけの、設備と用意とを怠つてはならぬのである。

一、各保母は多方面から湧出する幼兒の疑問を満足に解決するだけの豊富なる理科的智識を抱持する必要がある。又奔放自在の無制限なる自然界から惹起する幾多の危険を、安全に防遏するだけの周到なる保護的注意を打拂ふ覺悟が要る。斯の如き研究と監督とは、我々保母にとつて此上もない修養上の好題材で、願つても當つて見るべき喜ぶべき事實と言はねばならぬ。

一、其野外で採取したる物を、各自の室内に持ち歸りては、一々整理して貼紙や、摺紙、又は切紙等と配合せしめ時に或は描き方とも組合せて、各種製作に使用せしむるのである。而かも各種の苔類や、小さき植物などと配合せしめて盆景や箱庭などを作る時には、應用極めて自由にして、多

方面なる製作をなさしむる事が出来る。悠大なる自然を簡楚なる室内に再現する事は、彼等にとつて大なる喜びであり、限りなき興味をそそる次第で有る。

一、時に或は小さき草若き木の葉又美しき花などを配して、額面に押し當て、さまざまなる風景や想像畫などを押畫的に現出せしむる時は、生氣潑瀾たる變化に富んだ額面が出来る。之れを掲げて室内の裝飾に供する事に、彼等に取つて大なる誇りであり、限りなき喜悅を呼ぶ次第ある。

一、押繪にした額面内の植物等は、時が過ぐると色彩が變化し生氣が耗失して、殘骸を晒すの感か生じて來るから、保母餘儀なく度々之れを取換へねばならなくなる。斯く度々取換へる事が、一面室内に大なる變化を與へる所以で、保母の創意に一層の工夫を要する譯である。此煩瑣なる手數と多大なる努力と、又自由なる創意とは、一面興

味湧出の上に、思考練磨の上に甚だ偉大なる効果を奏して居るのである。

一、概して自然物應用の手技は、平面的なるものよりは、立體的に多く用ひらるのであるから又一法之れを粘土製作に取り組んで應用する時は、其妙味一段と深いものがある。

一、之れを要するに自然物應用の手技に對しては、保姆は特別なる趣味と、不斷なる努力と、熱心なる研究とによつてかからねばならぬ。決して氣まぐれのな、一時の流行氣分で着手してはならない。永遠的なる、繼續的なる、高大なる理想を以て取扱ふだけの勇氣がなければならぬ。(昭和五・一〇・一・松山生記)

自然物應用手技細目表

第一學期

材料製作摘要

櫻の花 花はつなぎて人形や人の頭を作る。

たんぼゝの花 花にてかんざし、筆、花束、勳章を並べて水草等。

すみれ 花にてお相模をとらする。

筍とその皮 筍にて水桶、柄杓等皮にて傘、提灯、立雛を。

土筆又はすぎな つぎ目の當てくら。

おぼば、こ 葉はほゞつき代りに、花莖は機械又はギーコバツコ。

藤の葉柄と實 葉柄にて龜の子草履籠類を編み實は刀に。

笹の葉 船となり笛となり、まゝ事のちまきとする。

柘榴の花 糸にてつなぎ又は柄杓。

椿の葉 秤の皿その他いろゝ。

ぎぼし ぼゞつき、手毬、人形の頭など。

藤豆と鶏頭 鶏やその他の鳥類。

蓮の葉、芋の葉 お面となり水玉ころがし。

クローバーの花 つなぎて首輪その他いろゝ。

第二學期

ぼゞつき 人形の顔に、水に浮べて船に。

蛇の鬚 葉は組みて章履を實は蹴毬にす。

西瓜の皮 お面や提灯を作る。

胡瓜 爪 お馬にも、犬にも、ポットにも。

茄子 豚、鯨、提灯等を作る。

唐黍 皮や穂もて人形等を作る。

朝顔の花 酸をかけて花の變色、落音機に擬し、鐵砲の類。

栗、どんぐり 平たいものにてしゃもち、人形、つないで冠に。
からたちの實 毬の代りに。

柿の實や種子と 葉と松葉にて虫籠、人形の着物、柿の實の車、
その葉 種子にておはじき、又排べ方に。

枯 芒 人形の細帯、鼻製作。

青桐の葉 蟬、魚類、お舟を作る。

銀杏の葉 編笠、扇、べんぐ、大鼓を作る。

山吹の葉 蘭籠や手提カバンを。

菊の花 彩色してかせを作り、小さく切つてまゝ事遊び
に顔にねばしてヒーローのまねをなす。

第三 學期

赤 燕 人形を作る。

麥 稈 麥藁細工の各種籠や、いろ／＼の模様。

猫 柳 つなぎ方に用ひ、鼠を作る。

芋 芋判を作り、いろ／＼に切りて遊ぶ。

松の葉 用途きわめて多し、魚、とんぼ、舟、烏帽子、
葺、扇、鉄箒。

金 柑 人形の顔に、又こまとして回はず。

密 柑 實はく／＼り猿に皮は籠に、押しして土瓶ひきに
して遊ぶ。



愛兒の爲めに語る (承前)

二八

——或る母の會に於ての講演を抄録して——

中 村 楠 雄

□
一本帯を買ふにも、なるべく柄行きのよいもの色彩の美はしいものをと考へない方はありますまい。これは何故かと、申しますと誰れにも美的情調が内在してゐるからであります。しかもこの情調の豊かな人程其の帯の選定も上品で立派で、美しく、つまり上手な筈であります。こんな類の人は氣のきいた人だ、上品な方だ、つくりがうまいなどと、ほめられる人であります。以上はほんの一例でありますが、つまり美的情調の豊かな人程男にせよ女にせよ其の身の廻りでも家内でも、美

はしく整然と高雅にととのへられるに違ひありません。従つてこうした人は起居動作も自ら奥ゆかしく、人をして深みを感じせしめ尊敬の念を起さしめるに違ひありません。私達は出来るなら私達の愛兒をしてかくの如く品高く恵まれたる心の持主に育てあげたいものであります。私達は私達の愛兒の幸福なる生活の爲めに、レベル高き生存であらしめる爲めに、この美はしい心情の啓培に細心の注意を加へてやりたいものと存じます。

さてそれではさうあらしめる爲めに、どんな風に注意をしたらよいのでせう。どんな事柄に氣を

つけたらよいのでせうと云ふ事になります。何といつても其の両親が廣く高い趣味を持つてゐるに越した事はありません。かくてこそ本當に圓滿に其の心情の陶冶が出来る事と信じます。けれども若しこれが萬人一様に望めない所と致しますならば、少なくとも子供と共に美はしい生活を仕て行かうとの努力、熱心を持ちたいと思ひます。

では今少し具體的に申上て見ますが、以上申上ました様な教育を致しますのには、小さい時から随分色々の方面に注意せねばならぬのであります。が、例へば良い繪畫良い音樂等に親しませる事も誠に大切でなからうかと思ひます。こうする事によつて高尚なこれらの藝術を理解し鑑賞し得る素地が、漸時に培かはれる事と考へます。

それではさう云ふ機會があるだらうかといふ事になります。が、まづ繪畫の方について考へまして、帝展を始めとして院展、二科會等々大小の展

覽會が都鄙分に應じて催されますが、それ等をなると見せてやる事も一方法でせう。また家庭の事情に應じてはよい繪を多少なりとも集めてやれませう、或は繪の先生に頼んで指導して頂く事も出来ませう、名畫の寫眞版やコロタイプ版なども相當役立ちませう。心をそこにこめて油斷なく致しますなら、機會は案外あるのかも分りませう。

こゝまで至らなくても例へば一冊の雜誌、繪本を買つて與へるにしても、惡い色彩や下品な繪のものは避ける位の心づかひがあつてほしいものです。一般的に申しますなら存外こんな點に不用意な親達が多いのじやないでせうか。

音樂にしても有名な方の演奏會などへは、つとめてつれて行つてやりたいものです。冗費を節し子供の教育のためにのみ惜まらず金をつかつてやりたいものです。見榮を張つたり單なる驕樂のためのみ度々こらした場所に出る事は、これは全

く無用な事です。けれども誠に純真な氣持ちで、其の子の教育のために、自分の子を高くするため、人間完成のためにといふ念願からなら、實に貴い仕事ではないでせうか、

此頃蓄音機とかラヂオとかがどしどし家庭に入りこんで參りました。これらも音楽に親しませる上に有力な武器であり、いゝ機會を與へて呉れるものと思ひます。けれども一面親のよき注意の要を大いに感じます。あのつまらぬレコードを取り巻いて、親も口ずさみ子もまねをするといつた光景を眼にすると、子供の爲めに寒心に堪えぬ氣持ちを感じます。私のお預りしてゐた子供の中にも幼稚園で俗惡な歌を平氣で歌ふといつたものが、發見する事がありました。「どこで習つた」と尋ねますと「うちの蓄音機にあります」との答を往々得るのでありました。聞かない様で聞いて居り、覺えない様で覺えて居るこの時代の子供こそ本當

に油斷がならないのであります。

それでお子達の居なさる御家庭で、若しレコードを買ひになる様な場合には、價は高くとも、十枚お買になる所を半分にしても、但しは一枚にしても、藝術的氣品の高い何回聞いても味ひのある。幼兒の教育上差支のないものをお具へ願ひたいと存じます。

これには高尚な西洋音楽などがよろしいのでないのかと思ひます。子供だからとて低級なものも與へるのがよくないのであります。「子供の遊ばせ方」といふ書物があります、この中にも

或る子供が蓄音機をさく時は、常に調子の高い名曲をきかされてゐました。時傷賑やかな歌劇（帝劇女優の入れたもの）をきかされた時に、忽ち不平を起して言ふには「どうしてあんないやなのをお買ひになつたのでせう」と。この言葉から推しても、子供の耳には確かに聞きわけける力を持

そつてゐるのであります。

と書かれてゐます。これは間違ひのない事であると信じます。

尙ついでにこのレコードの撰擇に就て考へたいのは、これは少し無理な困難な注文であるかと思ひますが、子供を持たぬ一般家庭の方とに對しても、同じ要求を致したいのであります。つまり吾々の家庭は社會の一單位として、私共は社會の一員として公の生活をしてゐる意味から、お互は互の社會をよくして行かねばならぬ責任上からさう申上げたいのであります。

これに就て一つの實例を申上ますが、私はかつて或る場所に住んでゐましたが、其の時某家に蓄音機を購入したのであります。それが傳染して引續いて近隣二三の家も買ったのであります。所がそれらの家に購入されたレコードであります。其の中には一寸した洋樂類もありませんが、大體は

各種の俗歌、活動寫眞の説明等であります。すると何時か知らぬ間に、近所邊の子供達は遊びの間にも、特に太い聲を出して、映畫説明のまねをしたり、或いは道傍のわきの小高い所にかはるがはる立つて俗歌の獨唱や齊唱をする様に（學藝會の様に）なりました。其の上手な事うまい事には感心させられましたが、まだ學校へも行かない様な子供までまじつて、意味も分らずにあゝしたつたらぬ下卑た歌などを歌つてゐる事には本當に考へさせられました。

さういふわけで自分の家には子供はないからかまはぬなどと考へにならないで、何分外まで聞えて行くものでありますのでどうか小さい子供達のために、世の中のために國へのために、こうした點にまで美はしい心づかひを煩はしたいと存じます。

歐米に於ける學校給食の現状 (承前)

榮養研究所技師 原 徹 一

七、北米合衆國

イ、概 説

アメリカの學校給食は一八九八年に開始された
 フイラデルフィアの一仙辨當に初まる。しかし教
 育者や公衆衛生當局が此の辨當の效果に留意する
 に至るまでには十年間もかゝつた。一九〇四年と
 一九〇五年にはハンター及びスパージョー兩氏
 (Hunter and spargo) は小學生の中には榮養不良
 者が極めて多數であると云ふ事について世人の注
 意喚起に力めた。そして此の惡魔と戰ふにはどう
 しても學校給食によらなければならぬ事を指摘し

た。又ウイリアム、マックススウエル博士 (Dr. V. E. Lilliam H. Maxwell) は永年ニューヨーク市で學校
 管理官をして居つた自個の經驗から早くから學校
 給食の主唱者であつてしばしば之が採用を教育局
 に進言した。

しかし彼のこの願は一九〇八年ニューヨーク學
 校畫食委員會によつて、ニューヨークの小學校で
 學校給食が實行されるに至つて、初めて世人の注
 意を惹いたに過ぎなかつた。

アメリカは最初無償にて學校給食すると云ふ事
 は却つて生徒教育上に惡影響を招來こそすれ、榮
 養上にも或は其の他にも何等の價值がない、と云

ふ説が盛んであつた爲、夫れに禍されて無償給與と云ふ事などは全然考へられなかつた。わずかに自活自持出来るか、或は一部の補助によつて自活出来る程度の學校給食法の實行が當局者のために實行し易しと考へられたに過ぎなかつた。即ち昔から言はれて居る此の一仙辨當法により子供等が今まで無駄な物を買つてゐた金を冗費せしめずス、コリアその他體の榮養になるものを買はせうとしたのである。即ち救濟の目的でも慈善の目的でもない。無駄使ひを好轉し夫れの利用を心掛けたと云ふのに過ぎない。

米國に於ては精確なる記録がなかつたため學校給食に關し其の發達の狀況を知る事が困難である。一九一八年紐育市勢調査會が發表せる報告によつて給食事業の發達史が多少明かになつた。紐育市勢調査會は同市の調査をする機會に米國內に於ける人口五萬以上の百三十一都市の學校給食事

業狀態を照會調査した。

其の百三十一市の内八十六市は回答を與へた。それによつて此の事業の大體の發達がわかつた。其の主なる都市の給食數を表に示して見る。

人口三十萬以上の都市につきての調査

紐育市 (マンハッタン)	一九二一九五	尋常小學校	九四校
同(ブルックリン)	一九三一九五	尋常小學校	四一六校
シカゴ市	一九二一九六	尋常小學校	〇一三校
フィラデルフィヤ	一九三一九七	尋常小學校	〇一六校
セントルイス	一九三一九六	尋常小學校	一一五校
ボストン	一九二一九七	中等學校	一八一八校
ピッツバーグ	一九二四一九七	中等學校	三二七校
ロスアンゼルス	一九二四一九七	尋常小學校	七一〇校
サンフランシスコ	一九三一九六	中等學校	三一六校
ニューオールレヤン	一九二一九六	尋常小學校	二一〇校
ミンネアポリス	一九二一九六	尋常小學校	三一三校
		中等學校	五二六校

右表に示す様に人口三十萬以上の都市に於ては中學校の給食の方が少ないが回答せる八十六市に

就きて見るに中等學校給食は六十六市即ち七六%尋常小學は二十二市即ち二十六%である處から見ると、給食は中等學校の方が多い状態にある。中等學校に於て給食の多い理由は精確にわからないが中等學校は尋常小學校に比して授業の時間の多い事、學校が少ない爲に遠隔の土地より通學するもの多く且晝食時間が短かく、到底晝飯喫食に歸宅出來ざる事等が主なる理由となつて居る。之に反して尋常科の方は晝食時間も長く又通學距離が極めて短い爲に兒童は各自歸宅する事が便利であるのでどうしても給食が自然と少くなる。處が實際社會事業の見地よりせば給食は中等學校より尋常小學に其の必要を認める。即ち此の時代の兒童の食物の適否は其精神並に肉體の發育に非常なる關係があるのみならず、食物に對する嗜好は此の時代に慣習されるものであるから、食物に對し榮養學上より適當に指導する事が必要である。處が

大部分の都市は尋常小學に重きを置かず中等學校にのみ重きを置いて居ると云ふ事は、學校給食を兒童又は保護者の便宜の爲に取扱つて居る事を示し、心身の發育に學校給食が及ぼす影響の大なる事に就きて何等想到して居ない事を示すものでまことに遺憾である。其の事項につき特に追加回答せる七十二市の内單に五市のみが尋常小學校の榮養不良兒童には合理的適食が必要である事を記載して居るに過ぎないと云ふ状態である。

ロ、都市に於ける學校給食の状態

A、紐育市

1 歴 史 マンハッタン及びブルックリンに於ては一九二〇年迄は固定的に計畫された學校給食はなく只一時的の組合又は晝食協會と云ふものゝ手で隨時隨所に行はれたに過ぎなかつた。處が教育局は榮養不良兒の救濟の必要を認め、其の施設として學校給食を最も適當なるものとなし、マン

ハツタン及びブロンクスに於ては一九二〇年度より他は翌年より順次其の實行をなすべしと聲明し責任を明かにした。それで教育局は早速學校給食に必要な調理所並に食堂に器具を完備し一九二〇年一月よりマンハツタン及びブロンクス同年九月よりブルックリンの給食を開始した之れ迄紐育市の學校給食は既に十二年の經歷をもつて居つたのであるが、今迄は固定的のものでなかつた。茲に初めて確固たる基礎が出来たのである。試みに此の時までの給食状態を數字的に表示すると次の通りである。

マンハツタン及ブロンクス		給食學校數		給食數	
一九二二—一三	一七	二二二二	二二三五		
一九二一—一四	一七	四三一	三七五		
一九一四—一五	一九	四六七	九八三		
一九一五—一六	四九	八〇〇	〇〇〇		

一九一六—一七	三四	八二五	〇〇〇
一九一七—一八	三五	八〇〇	〇〇〇
一九一八—一九	二六	五九五	〇〇〇
一九一九—二〇	一四	三〇〇	〇〇〇
ブルックリン及クイーンズ			
一九二二—一三	二		
一九一三—一四	八		
一九一四—一五	一三		
一九一五—一六	二〇		
一九一六—一七	二二		
一九一七—一八	一八		
一九一八—一九	一八		
一九一九—二〇	一六		

元來學校給食と云ふ事は兒童の肉體的發育に貢獻する處大なるものがある爲極めて必要なるのみならず、又社會的に兒童養護と云ふ點から見ても極めて肝要なる事である。従つて兒童教養の任に當る當局が責任を解したならば必ず行はねばなら

ぬ緊要問額である。

2 給食方法 マンハッタン及ブロンクスに於ては室内遊戯室に於て食事せしめる。然し之れは一時の間に合せである。食事時間の一分前に生徒監がテーブルやペンチを用意する。兒童は一列に列び室の入口で盆とスプンを貰ひ室内に進む。進む順路に食卓を置き其の上には各種の食事が用意されて居る。そこで兒童は彼れが好む處の品を探し求めて之れを盆に盛り更に進んでテーブルの端に立つて居る勘定方に金を支拂ふ。それから各自に食卓につき之れを食するのである。丁度アメリカの全都市に見るキャフエテリア式である。

3 食物の栄養價 兒童の好める調理を選択する事になつて居るから各調理を栄養上から見て適當なものとせねばならぬ。此處が骨の折れる處である。

それで最も栄養價の高い調理をなるべく選ばせ

る様に力めて居る、栄養手は最も栄養價高きものを最も安價に作ると云ふ處に其の技能が認められるわけである。又食物に對する人種的又は宗教的の嗜好差異の外に又各自の食品に對する迷信偏見なども大に參考にせねばならぬ。それ故アイルランド人、ユダヤ人、イタリー人の多い處などでは特に此の點に注意する。ユダヤ人學校に於ては食品に對しユダヤ教又は彼等の因襲を無視せずして給せられ、イタリー人學校に於ても同様に人種的嗜好偏倚を認容して居る。又ヘブライ人の部落ではユダヤ又はイタリー人と反對な因襲を持つて居る。それ等を參照して教育局に於て適當と認めたる献立を作成する其の一例を示すと次の通りである。

月曜日

コ、ア、バター付マキパン、玉蜀黍シチュー、梅シチュー。

火曜日

豌豆スープ、ビーナツツ及コツチーシュチーズ、サンドウイツチ、レモンソース、果實とタピオカ。

水曜日

野菜スープ、豆炒り、チヨコレートバナナ入りココルスターチ。

木曜日

豆入トマトスープ、バター付マキパン、クリーム入
タピオカ、ライスブヂェンク。

金曜日

コ、ア、鮭サンドウィッチ、果實、オートロール
菓子。

土曜日

なし

右献立の内兒童の好むものを自由に選擇せしめ

る、以上の調理は一品三仙で賣られる。此の外兒童はパン一片二仙、ミルク一杯三仙、クラツカー一仙、キャンデー一仙などを勝手に買つてもよい事になつて居る。更に十仙出すと三皿の調理の外に飲み物やクラツカー、キャンデーなどを揃へた別誂への定食もある。

ブルックリン學校では日々、スープ、ベーク又はスチューした調理、デザート（果實又はブツチング）などを與へる。此外クラツカー、キャンデーが一仙でも二仙でも賣られて居る。

一九二四年の調理の一例を示すと

三仙均一。スープ。―黄スプリットビー、グリーンスプリット

ビー、大麥及クリーム、大麥及野菜、白ビーン、クリーム

リマ、リマ及米、レンチル米及トマト、マカロニ及トマト。

三仙均一。野菜。―ベークしたビーン、ベークしたリマ及米

ベークマカロニ及トマト、ニンジン及グリーンビー。

二仙均一。デザート。―ライスブヂェンク、チョコレートブヂ

ェンク、コンスターチブヂェンク、タピオカブヂェンク、ブドー

入ブヂェンク。

二仙均一。果實。―梅、桃、杏、アップルソース。

4 食品の調理 食品調理には三方法が用いられる。單獨調理所法は單獨な學校にのみ調理給食するものである。團體調理所法 一校に調理所を有しその學校の給食のみならず其處で調理したものを附近の數校に給食する。中央調理所法は調理所を學校に附屬せしめず中央部で調理所を有し其處で調理された食品を多數の學校に送り給食する。ブルックリンでは只第一法の單獨調理所法のみが用ひられて居る。

第二の團體調理所法は中央調理所法では調理物の運送と云ふ事が必要となつて來る。最初紐育に團體調理所が出来た時には手押車で料理物を運ん

だものであるが給食所が増加し、それが中央調理所式になり、一調理所より例へば二十校へ而も調理物を濫い間に運ぶと云ふ事になつて來ると到底手押車位では問題にならなくなつたので現今では運搬用の貨物自動車を採用して居る。中央調理所法は此點に費用がかかるので最初は經濟的でないと云ふ理由を以て紐育では用ひられなかつた。處が各學校で各自に單獨式調理所を設立して見ると建物に餘裕がなかつたり勞働賃が嵩んだりするので結局高價な不經濟なものであると云ふ事になつた。今一例として一九一七—一八一—一九の三年間食品外の勞働費用につき單獨と團體とを比較して見るに、

一九一七年

中央調理所	給食學校數	一週間の全費用(食品外)	一校當り	一校一日當り費用
公立小學校並	四	四〇・〇	二〇・七五	一三・五
〃	七	四四・〇〇	一三・〇〇	一三・一〇

一九一八年

公立小學校並	二〇	二六五・〇〇	一三・二五	一三・〇〇
〃	一	一五・〇〇	一五・〇〇	一五・〇〇
〃	三	六〇・〇〇	二〇・〇〇	二〇・〇〇
〃	四	三〇・〇〇	七・五〇	七・五〇
〃	一	三〇・〇〇	三〇・〇〇	三〇・〇〇
〃	一	七〇・〇〇	七〇・〇〇	七〇・〇〇
〃	五	六九・五〇	一三・九〇	一三・九〇
〃	二	三五・五〇	一七・七五	一七・七五
〃	三	五五・〇〇	一八・三五	一八・三五
合計並に平均	三三	一〇〇・〇〇	三〇・三〇	三〇・三〇

一九一九年

公立小學校並	一四	二六〇・〇〇	一八・五七	一八・五七
〃	一	一五・〇〇	一五・〇〇	一五・〇〇
〃	二	七〇・〇〇	三五・〇〇	三五・〇〇
〃	三	五七・〇〇	一九・〇〇	一九・〇〇
合計並に平均	一八	一〇〇・〇〇	二九・八三	二九・八三

施設	小學校	學校數	一校宛平均 日々費用
〃	六・〇〇	一	六・〇〇
〃	一〇元	四	二・五〇
〃	六〇	二	三〇・〇〇
合計並に平均	二六	六六・〇〇	三六・〇〇
〃	六・〇〇	一	六・〇〇
〃	九四	一	九四
〃	四七	三	一五・六三
〃	四(ブロンクス)	一	二・四〇
〃	四八(ブロンクス)	一	二五・六〇
〃	一〇元	四	七・三五
〃	六〇	二	六・三〇

であつて一校の單獨給食では一九一七年調理所九四號を除きては何れも費用が團體調理より遙に大となつて居る。概して二倍乃至三倍となつて居る。然し團體調理法には此の費用の外に運搬を要する。之れを加算しなければ全費用の比較にはならない。運搬費は一校に對しては平均一・七五弗であるから之を加算して運搬費を要せざる單獨調理と比較研究して見る

であつて同じく單獨給食法が費用のかゝる事を示すのである。特に表に示す如くブロンクスの二校は其の費用が他のものゝ二倍以上になつて居る。九八E號は今は十校しか調理を供給して居ないが五十校へ供給する事が出来る設備がある。即ち其の全能力を舉げて給食するに至らば裕に五十校へ給食する事が出来る、斯くなれば其の費用は極めて低下する事が出来るだらう。

マンハッタンに於ける學校給食では兒童は必ず食費代を拂はねばならぬ事になつて居る。それ故此兒童からの徴金は食品代と之を調理するに要する費用の總計額と同額に達する事もあるが多くは不足勝ちである。又ブルックリンに於ても給食は經營上自持する事が出来る。收支決算の一例を示すに(一九一八—一九一九年、紐育給食委員會)

收 入	支 出
給 食 代 三四、七九四 ^第	食 品 二五、〇八三 ^第

不 足 二七、三四 給料及賃金 二八、九六五

運 搬 費 七、二三

雑 費 八四八

合 計 六二、〇二八

給食代徴収金額では食品原料代を支拂ふて餘る。然し他の費用が多いので徴金のみにては全費用の半額に達するに過ぎない。

ブルックリンの例（一九一九—一九二〇）

收 入 支 出

給食代 二五、五〇五・〇九 給料及賃金 五、八三九・七五

食 品 一八、〇三・七六

雑 費 二四六・七七

計 三四、二八・三六

差引利益 一、三六・二八

マンハッタンに於ては費用に不足を生ずるに反しブルックリンに於ては却つて利益を生じて居る。之は労働賃金が安いと云ふ事が主なるものな

るが其の他支配人の經營が上手であると云ふ事も大きな理由となつて居る。こゝでは食堂の設備が完備して居るために食事の調理、配膳、代金の徴集などが一人に出来る様になつて居る爲である。

此の費用軽減は實に文化的設備の賜物ある。マンハッタンでは空地が少ない爲に常設の食堂を設立して置く事が出来ないので、止むを得ず遊戯室を一時的に食堂に代用するため、テーブルの取扱ひなどに特に労働を増し、而も其の労働は到底一人で出来ない事であるから、少くとも一校に二人の労働者を要する事となる。従つて労働が不經濟となる。そのみならずマンハッタンの労働賃金は家事労働と同様の金額であるに、ブルックリンに於ては其の時の一般賃金と同一であるが爲に非常に安くなる。

こんな理由からしてブルックリンに於てはマンハッタンの賃金に對して四〇%も減少する事が出

來る。又經營上に於てもブルツクリンは最初より自持する事が出来る様に計劃したものであるから従つてマンハッタンと多少趣きを異にし、食品の代價も多少高價になつて居る。マンハッタンも之れから自持的經營にせんとすれば止むを得ず食事代金を値上げせねばならぬ事となる。然しこれは教育局の「給食は教育的である」と云ふ方針に反する事であるので兒童よりの徴金はせめて食品材料代を充せばそれで足る、事業費は教育局が負擔すべきものであると云ふ意見である。

5 貧民兒童給食 貧民兒童には無償にて給食する。貧乏で自分の兒童のために適食を買ひ與へる事の出来ない親たちの爲に、給食協會は世の慈善行爲に訴へて寄附を募集する。無償給食せしめる兒童は各給食所で大抵百人以上ある。協會は之等兒童の親達の生活状態を精細に調査せる後到底食事代を支拂ひ得ざるものと判斷決定すれば其の

兒童の各々に一日當り五仙の食事券を與へる。この五仙券があれば一食三仙の食事と二仙のデザートが得られる譯である、ブルツクリンに於てもマンハッタン同様慈善局 (Bureau of Charity) 又は他の同種團體が同様に無償給食をなさしめる。

6 給食の教育的効果 給食の教育的効果を大ならしめる目的、即ち兒童の心身の發育を助長せしめる他に兒童に家庭科學を教育する目的で特に調理學級 (Cooking Class) なるものを設ける。この學級では家庭科學教師の指導で献立を作成してこれによつて調理の實際を習練する。出來上つた調理物は給食の目的で給食協會の手で配達分配する調理に必要な器具材料は教育局の用度並購買掛より供給される。實習せる調理物は時折其の兒童の母を招待して試食せしめ、其の際教師より其の一品一品につき榮養學的に講義して聞かせる。そして家庭に於ても斯様な食品を斯様な方法で調理せ

よと勸説する調理級を設定せる學校に於ては實習調理物を一般に販賣する處もある。この調理は個人に對する一品料理と云ふのでなくして家族的な料理であつて、女子兒童をして家庭に於ける調理に興味を感ぜしめるやうにするのが其の目的である。此の調理献立は其の日の榮養學の教材となるもので教師はこの調理につき一々榮養學的に講義して聞かせる。此の學校給食又は調理級は教育局副局長の主監する處であつて、同局長の意見を聞くに「學校給食は絶対に教育的であらねばならぬ。然らざれば教育上の効果を缺く。給食事業が發達すればする程必ずや此の効果の大なる事は一般人の認識する處となるだらう」と。

7 中等學校給食 中等學校は尋常科に比して學校給食の實行が容易で既に八五%までは實行して居る。此の給食の實施は教育局と關係無く學校庶務課が直營せる場合と學校當局が特に選定せる

請負人にやらせる場合とある。請負人に經營せしめる場合も學校に於ける調理所及び諸般の設備を無償にて貸與する。斯様に經濟上の注意を怠つて居ないのに拘らず學生に必要な榮養量並に學生に請求する食品の價などに就きては一切注意されて居ないのが不都合であつた。それ故自然之れに對して不詳が加はり爲に此の請負式を學校直營に改めなければならなくなつた。其の結果以前より良質の食品を安價に供給する事が出来るのみならず其の上尙多少の剩餘を見る事が出来る様になつた。此の組織の改善による利益は實に莫大なるものである。即ち商人の暴利を除き食品の質を改良し生徒をして保健能率を高からしめる事が出来たのである。我が日本の中學校以上の寄宿舎などに於ては主として此の請負制度によつて居るのであるから、恐らく同様の弊害を伴ふものと見て差支へなかるべく、洵に生徒の保健並に經濟の見地か

ら遺憾とする處である。

紐育市に於ける中等學校の給食状態を数字的に表示すると

給食を受ける生徒数	マンハッタン	ブロンクス	ブルックリン	クイーンズ	リッチモンド
學校直營	三六六三	二四九七	—	二〇七九	三三五
請負式	一九三五	一〇三三	七四三	—	三九六
給食せざるもの	九四八	一五七一	七三	三六六	三〇三
計	五五四五	二四三〇	八二五	二四四五	六三三

即ち全生徒の一四%は給食を受けて居ないのである。然し紐育市内のみに就いて言へばマンハッタが六%ブロンクスが約九%である。

8 中等學校給食品の性質並に給食の經濟状態直營である處は請負式の處に比して著しく良質の食品を食給して居る。

供給して居る食品を列舉して見る。

スープ。—野菜スープ、トマト、ビーン、ビーフ。—牛肉、ハム、コロツケ

魚。—牡蠣、鱈、ハリバット

温きもの。—ビーン、マカロニ、米、ビー、馬鈴薯
モロコシ、トマト

サンドウイツチ。—ハム、レツターズ、ローストビーフ、ハンブルガー

サラダ。—果實、馬鈴薯、鮪、蝦
ブディング。—ライス、チヨコレイト、コンスター

チ、パン、カスタード、ブリュイン、バナナ
パイ。—チヨコレイト、アップル、桃

ソース。アップル、杏
アイスクリーム。

調理果實。—焼林檎
菓子。—クッキ、パンズ、ゼリート、キャンデー、

ジャム
果實。—バナナ、オレンヂ、林檎

値段は學校によつて相違し、年によつて異なる。
スープは五—一〇仙、肉は一五仙以上、デザート

は五一一〇仙である。

經濟狀態 中等學校の給食は利益があるので請負に權利金がついて居る程である。學校直營の所でもへも不足を生じた處は一校しかない狀態である代表的に十校を選 べ其の收支決算を示して見ると

中等學校	收 入	支 出	剩餘金
Bushwick	五二二・六	一五五・六	(一)四七・〇
實業學校	八六二・六	八四五・三	一九・三
商業學校	一五八・六	一八二・三	二七・七
De with Clinton	三三〇・三	三三三・七	三・四
Brasens Hall	一〇〇・三	二七二・七	一七二・四
女 學 校	三三三・三	三〇九・九	二三・四
Julia Richman	一三〇・三	一五九・九	二九・六
工 手 學 校	一三三・二	二六四・三	一三二・一
Richmond Hill	五二〇・三	五〇八・六	一一一・七
Ray Ridge	三五六・〇	二五七・三	一〇八・七

9 中等學校に於ける教育上の効果 小學校と同じく教育的でなければならぬ。中等學校に於ては小學校より更に進んで食品の養價に就ての智識

のみならず經濟的智識も與へなければならぬ。此の點に關してジュリヤ、リッチマン、ハイスクール (Julia Richman High School) が最も良い成績を示して居る。即ち最初に献立を作製すると其の調理に關し日々ブルタンを生徒に與へる。此のブルタンは平易なる文章で榮養と食品に關する科學が書いてある。他の中等學校に於ても家事科學の智識を與へる様に力めて居る。調理は家事科生徒がする場合が多い。

寶 玉 集 よ り

毎日小鳥背黄青いんこうのはこべを摘むのを續けて二、三日同じ男兒にたのんだら

「先生此鳥ひよつこなしたら、おれにくんつえよ」

「先生おれにもな」

「おれ毎日草とつてくれるんだもの」

(福島縣若松幼稚園)

一月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

例に因つて、一月中旬から、二月中旬迄の手技材料に就いて、考へて見ませう。

一月は何と云つても、冬の最中でせう。日本中の多くの地方では雪に埋もれて居る期節であります。従つて、雪の觀察雪の景色は、子供の興味を牽ぐでせう。雪の降り頻る日に、暖かき部屋の中で、雪をもちやにすることは、幼児の最も喜ぶ觀察的遊戯であります。此時、兎雪だるま、雪の燈籠、ち山、隧道、など色々面白細工が出来ますが、雪は粘土の様に作り直しが、容易すくは出来ないので、充分な手工材料とはなりません。巧みな燈籠や兎などは何うしても先生の細工であ

ります。併し先生の細工するところを見せる丈でも結構でせう。又細工の仕悪いことを經驗させ、一度堅めた雪が子供の力では中々崩れないと云ふことを實驗するだけでも、よい觀察でありませう。次には、雪の製作物を圖畫に表現することも、よい遊びであります。白い紙の上に白い雪だるまを描くことは、一寸子供の考への及ばないことでせう。背景を鼠色か灰色か又は黒などで、塗りつぶして行く中に、だん／＼と雪だるまが見えて來ることは面白い手際です、同様にして雪の景色が出来るでせう。雪の積つた家、雪を冠ぶつた木、雪の富士山など、夫々同様な筆法で出来ませう。一

二度先生が書いて見せることで、子供は充分呑み込んで、眞似して行くでせう。次には、雪景色の立體的表現も面白いてせう。談話の時にした雪中のお話とか年末にあつたクリスマス、サントクロイズの模様などを、紙の家や木で、綿を雪にして表現すると中々面白いものが出来た。出来上つた場面を一つの舞臺として、近來、おはよりの人形芝居も出来るでせう。斯様にして、雪の觀察に基いた手技手工材料は色々工夫することが出来ます。

次に、雪に因んで、綿細工が面白いと思ひます。青梅綿と針金を材料として、色々の形體を模造するのですが、最初に出来るものとしては、みかんりんご、なし、などの様な圓形なもので、凸凹や肢體のないものでなければなりません。先づ針金を適當に眞棒にして、之に綿を巻き付け、だん／＼に大きくして、りんごやみかんの形にするのです。

形が出来たらば刷毛で薄糊を表面に塗り付けて、乾かすのですが、是は子供には一寸困難かも知れませんが、形が出来上つたものへ、先生が塗つて遣つたらばよいと思ひます。能く乾いたらば、更に薄糊に適宜に繪の具を入れて塗るのです。是も、子供の仕事としては中々困難でせうが、用具や材料が適當に準備されたならば随分、幼兒にも出来ると思ひます。出来上ると中々美しく、愉快なものであります。子供に出来る範圍としては斯んな程度でせうが、少し器用な子でしたら、人や犬の形が出来たらうと思ひます。上手に出来ない迄も、先生の手工を見眞似して、少し進んだ細工することもよいでせう。

遊園での遊びの充分に出来ない冬の手技としては、何うしても、室内の机上で、細かなものを扱ふことになりませんが、是も止むを得ないことでせう。其材料としても自然物の少い時期ですから、

紙類や麥藁などの主として使はれるのも、是非ないことです。粘土は此時期に最も相應はしい細工ですが、子供の手が寒さで、荒れて居る時なので土いたづらも、何うかと思はれます。夫れで、此時期に、最も適當なものとしては新粉細工だらうと思ひます。或は油粘土、ゴム粘土なども、適當と思ひますが、前者は材料費が嵩みますし、後者は色付けが自由に行きません。是等の點で新粉細工は最も自由な都合のよいものであります。

新粉細工。町の場合などに行くと街頭に小さな屋台を下ろして、數名の子供に取り巻かれながら、色々な細工、をして、見せて居るのを見ますが、面白いもので、見て居る子供は手工欲に動かされて、「唯新粉」を買はずには居られなくなるものがあります。此「唯新粉」と云ふのが、今、私共の幼児に與へやうとする手工材料であります。お月見のおだんごと同じ様な仕方で作つた新粉を適當

に練つて、之に染料即染粉を適當にまぜて、更によく練れば自由な色が出来ます。練ると云つても唯、兩手で、こねる丈ですから、容易く材料が出来ます。之を適當に子供に配當して、別に、手に付かぬ様にする爲めの油(重に、びん付油)を少しづつ分配すればよいのです。油を少しづつ手に付けますから、寒さで手が荒れて居る子供にも別に苦痛にはなりません。細工の後も紙で手をよく拭けば油は落ちますから、別段洗はなくても、差支はありません。手を拭くには新聞紙を用ゆると一層能く油がとれます。

次には凧作りです。何と云つても一月は凧の季節です。當今は電柱や電線の爲めに凧を上げる場所は、非常に制限されましたが、夫れでも、子供の遊びとしてはよいものですから、事情と場所の許す限り、凧上げさせてやりたいと思ひます。幼稚園でも、此傾向を奨励する一助として凧造りを

したいものです。子供に出来る凧としては「いか凧」と云つて居るのが、一番簡單でよいと思ひます。其方法は先づ半紙一枚をたてに取ります。それから左右の側邊の向ふから手前へ三分の一の所に印を付けます。次に、上下の兩邊の中央に印を付けます。これで各邊に四つの印が出来ました。此四點を順次に隣同志を結び付けると相隣れる二邊の等しい菱形が出来ます。是れが「いか凧の本體」です。まはりの四つの角を切り取ると凧の形になります。次に細竹を適當の長さに切つて、此凧の相對する角を通して、十文字に紙の裏から、貼り付けます。糊が乾いたら横の骨の兩端から、糸を張つて、骨を弓なりに曲げます。次に骨の交叉點と縦の骨の下から三分の一位の所とに糸目を付けて之を適當に結びます。次に、縦の骨の下の端に尾を付けます。是は半紙を一寸位の巾に長く切つて三尺位の長さにして付けます。是で凧は出

來上りましたが、此凧は長い糸で上げると云ふ譯にも、行きますまいから、三尺ばかりの糸を糸目の端に結び、糸の端を更に、二三尺の棒の先に結んで、子供に持たせて、遊戯室の様な所を疾走させると、結構凧は上つて面白いのです。横の張の糸を張る前に、凧に畫を書かせても面白いでせう又、尾の紙を色紙にしても面白いでせう。一日は是れで遊べます。

梅と鶯、次には梅の花です。是は觀察實驗から始めて、梅の花の描き方、梅の花形の造花、盆栽の様な造花も出来ませう。圖畫や手工には可なり澤山な材料がある筈です。夫れから鶯です。是は出来たらば能く、鳴くのを暫時借りて來て、其鳴き聲を聞かせてやるのもよいと思ひます。是も圖畫の材料となり新粉細工の材料として恰好です。更に、綿細工で、造ることが出来れば尙一層結構ですが、是は一寸困難でせう。次には、是等の

斷片的細工を綜合して鳥籠造りをしたらよいと思ひます。

鶯籠。先づボール箱の明いたのを一づゝ用意して三方を千代紙で適宜に貼る。左右の二方には適宜な窓を明けても宜しいでせう。前は「しご竹」で鳥籠の縦格子を入れる。中には適當な所に鳥の止まる止まり木を用意し、餌箱、水箱も適宜紙で造つて入れる。籠の用意は是で出來ました。次に、鶯は塗り繪させたものを切り抜かせて付けてもよし、新粉細工でもよし、綿細工で出來たものなら尚よし、であります。鳥籠は或は豆細工で全部造つてもよいと思ひます。却つて、此方が子供の思ひのまゝに出來るかも知れません。

以上、雪細工、綿細工、新粉細工、並に之に關連して圖畫、折り紙、厚紙細工、豆細工、造花細工等色々と思ひ付くまゝに工夫して行くと二月の中旬迄は充分に遊べると思ひます。造花細工など

も、大人のする様な立派なものを造るのが目的ではありません。材料も必ず人工物を全部使用しなければならぬとは限りません。花を全部模造したとしても枝は自然物を其まゝ使つてもよし、又花にしても花瓣を紙で造つたら葉は自然物を其まゝ使つてもよいと思ひます。職業學校で教ゆる造花術を其儘應用するのではないのですから、能く誘導教育の本趣のある所を考へて、子供の出來る範圍内で、一寸思ひ付のものを工夫することを心掛ければなりません。幼兒をしてために手足を働かせ思ひ付の工夫を直に實現することに因つて趣味や模造、工夫の興味を發展させて行く所に、幼兒教育の根柢があることを忘れてはなりません。

おはなし ポチとお團子

小野直

貨物自動車は、ブウブウ、ガタ／＼と、向ふの方から走つて來ました。その、貨物自動車には、

大根や、午莩や、お諸が積んでありました。ガタガタ、ブウ／＼と、道の悪いところを走つて來ましたので、荷物の上につんであつた圓いものが一つころ／＼ところがつて道の真中に落しました。それを一番に見つけたのがポチです。ポチは、おなかがついてゐたので何かおいしいものが慾しかつたのです。そのおいしいものをお團子だと思ひました。

「あや！ 何か落ちてゐる。お團子らしいぞ。

お團子だとうれいな。圓い／＼、確にお團子だ。」

ポチは側に來てにははうとしますと、自動自転車がやつてまゐりました。

「ブウ／＼、バタ／＼／＼。危ない／＼。ブツブツ。」

ポチは驚ろいて道の端によけました。自動自転車は、おいしいものすぐ横を通つて行きました。

「あゝ、よかつたな。お團子を轢かすによかつたな。さあ、お團子をいそいで食べやう。」

さういひ乍ら、ポチが、おいしいものすぐ上まで、鼻をよせた時に、兵隊さんのお馬が澤山並んで元氣よく駈て來ました。バカバカ／＼、バカバカバカ、

兵隊さんは、大きい聲で、おいもをにほつて居るポチを叱りました。

「のかぬと、危い。」

ポチは、ビツクリして道の端によけました。そして見ると、お馬が澤山なので、きつとあのお團子はふまれるに違ひないと思ひました。

「危ない。團子だ。ふんでは、いけない。」

「危ない、團子だ。ふんではいけない。」

ポチはお團子をふまれさうで心配なものですから、つゞけさまに、聲をかけてゐました。

「危い團子だ。ふんではいけない。」

「危い團子だ。ふんではいけない。」

「危い團子だ、ふんではいけない。」と聞くとびつくりして一層かけだすお馬もありました。お馬は、皆行つてしまひました。おいもは無事に助かりました。ポチはよろこんで

「やれ／＼、心配した。まあ／＼よかつた。折角

見つけたお團子だもの。ふまれたら惜しいことだ。」

といひながら、おいもをかいで見やうとすると人力車が走つて來ました。ポチはそれには氣がつきません。車屋さんは、

「ホイ、ホイ、車だ、車だ。」

さういつた上に、鈴をチリリン／＼と鳴らしましたので、ポチは、びつくりして飛びのきました。車屋さんはおいもをよけて駈けて行きました。

ポチは、お團子がつぶされなかつたのでよろこびました。

「よかつたな。運がいい。」

ポチは、お團子が食べた／＼つて、もうながくは辛棒が出來ません。早く食べた／＼ならぬのに、又車が來ました。その次に、乗合自動車が來ました。その次に、牛乳屋の車が來ました。

その次に、のそくと牛が來ました。牛は、その
 あいもを見つけて、立ちどまつて食べやうとしま
 した。

「危あまい！、お團子なまだい。ふんではいけない。」

とポチがいひました。牛は

「ふみはしない。たべるんだよ。」

「食べちやいけない。僕わがんだよ。」

「僕わがのだ、さうだ、僕わがのだよ」

ポチは、ワン／＼、ワン／＼と吠うえました。

すると、牛を牽ひいてゐたおぢさんが、「シッシッ
 と牛を叱なつてお尻しつぽを鞭むちで打ちました。すると、牛
 は仕方なしに、あいもをぼんと蹴けつて、行つてし
 まひました。

あいもはころ／＼と、道の端まで轉まんで來ま
 した。ポチは大よろこびです。

「やれ／＼こゝなら大丈夫。ゆつくり食べやう。

あいしどうなち團子。」

それから一口かんで見ますと、「ガリッ」、「オヤ」
 今一口たべて見ますと、「ガリッ」、「おや」。「かたい
 ぞ」。ポチがよく／＼見ますと、よほどおなかの
 すいた時でないとお食たべない、生なまのあいもでした。
 「なんだ、生なまのいもか。團子なまぢやないのか。なん
 だ。つまらない」

さういひながらも、ゴリ／＼、と皆食たてしまひ
 ました。

生なまのあいもを食たべてしもふとほんとうのお團子
 がほしくなりました。それで、あうちへ歸つて、
 おさんといふねえやに、貰もらはうと思ひました。

「ねえ、ねえや、僕わがちだんごが、ほしいの。」

「ねエ、ねえや、僕わが、おだんごが、ほしいの。」

「ねエ、ねえや、僕わが、おだんごが、ほしいの。」

ねえやは、ポチが、お庭にわをついてあるくのが、う
 るさくなりました。

「あゝ、ポチは、うるさいね。」

「ねエ、ねえや、僕、おだんごがほしいの。」

「うるさいね。ポチは、朝御飯は、もうすぐぢやないかい、まつといで。」

「ねエ、ねえや、僕、おだんごがほしいの。」

「そんなにうるさいと、水をぶつかけるよ。」

「ねエ、……………僕……………」

「水、水、」

「ねエ」

たうとう、ねえやは、ポチに水をかけました。

ポチは、身體をぶる／＼とふるはせて水をおとしそれから、小屋に、はいつて、おだんごがたべたい／＼と思つてゐました。

そのうちに、お座敷の方で、お嬢おぢょうさんがポチを呼びました。ポチはお嬢さんが大好きですポチは大いそぎに駆けて行きました。

「ポチ、／＼／＼」

「あゝ、来たか／＼。」

「さあ、ポチ。お行儀のおけいこだよ。」

「ねエ、……………僕、おだんごが食べたいんです。」

「さあ、いゝかね、これをとつてくるんだよ。」

さういつて、木片きざらをお庭の木の間に投げこみました。ポチはすぐに取つて來ました。

「あゝ、偉偉い／＼。さあ、今一度。」

今度は、お池のむかふかには、まりを投げました。ポチは大よろこびでまりをくわへて來ました。

「まあ、お前いつそんなに、おりこうになつたの。」

「……………」

「ぢや、御褒美ごほうびをあげるよ。」「まつといでよ」

お嬢さんは、大きいおだんごを二つもつて來ました。ポチは、うれしくつて／＼。とびあがつてよろこびました。

「やあ、お團子だ／＼。」「うれし／＼。」

「じつとしてあいぞ」

お嬢さんは、おだんごを一つ下に置いて、「おあづけ」といひました。「おあづけ」の時は、ポチはどくなにほしくつても食べないお約束をしてあります。ポチは、じつとそのおだんごを見てゐるとひとりでによだれが、たら／＼と出て來ました。ポチの口がだん／＼おだんごのそばによつて行きますがたべるわけにはゆきません、お嬢さんは、

「ポチおあづけだよ、よだれがでてる／＼。」

ポチは、じつと我慢してゐました。

「よし。ポチ」

ポチは、大急にバクリとたべてしまいました。

それで、そのお團子がどの位おいしかつたのか分りませんでした。

「まあ、ポチは、一口にたべてしまふんだね。こんどのは、落ついて食べるんだよ。」

お嬢さんは、今一つのお團子を高く上げて、

「ポチ、ワンとあいひ。」

ポチは、大きい聲で、

「ワン」

「もう一度」

「ワン」

「もう一ぺん」

「ワン、ワン／＼／＼。」

おだんごを頂いたポチは、それをくわへて、自分のお家にもつて行つて、少しづつ、

「おいしい／＼。これはほんとうのおだんごだ。

おいしいおいしい。」

といつてたべました。

随分、長い間、食べたかつたおだんごでしたからさ、ぞおいしかつたことでせう。

あしまい

昭和五年十二月七日夜書

果樹取扱の草々

大 岩 金

桃の花が垣根越に美事に咲いて居ります。下の方には花一つありません。もし結實したら踏臺か梯でもの厄介にならねば收穫は困難であります。

枝が誠によく伸びて居りますが花は少しも咲かない。どうも思ふ場所へ枝が出ないとか、又は枝の勢が弱くて整枝が出来ぬとか、花は咲いても實が落ちて收穫が見られぬ等といふ様な事柄のことをよく聞いたたり、見たり致しますから思ひ出るまゝに是等取扱の草々を記します。

植付

寒地では何といつても早春に植付けねば不利であります。暖地では十二月頃が植時であります。

前者の早さに過ぎます時は霜害を被むり易く枯死する事がありますが、後者はその害を見ず早春には、早見事な鬚根を生じて發芽も早いのでありますから、秋の植付が有利であります。

植付距離は成長して後に密に過ぎない様にすればよいのであります。で根張は正しいのを選ぶべきであります。どうも根の張り具合と枝の張り具合とは同形のやうでありますから。

で根の切り方でありますが、是に上方式と下向式との二校式があります。上方式といひますのは切口の面が上にあり、下向式といひますのは断面が下に向つてゐるのであります。そこで上方式に

根を切りますと根の發根は下方に向つてするため多くは直根を生じ易く、施肥の効も甚少となり生育が悪い譯であります。又場合に依りましてはこの事の必要な時もあります。例へば風の強い所とか土質の砂質の場合等さうであります。下向式といひますのは發根が上方に出ます爲、地表面に多くの根を生じ、肥料の吸収に適し、一般的持に桃等の場合には必要な切り方があります。

根 廻

是は普通常綠樹の場合特に松等の移植の時に利用されるものであります。柑橘類等の時は必要であります。秋根の廻りを掘つて根を切り、綱等で搦めておくのであります。この方法を一度に周圍全部を行ひますと、枯死する慮のあります時は、二年以上にわたつて根廻をして始めて移植する事もあります。

肥 料

果樹の目的に依りまして、相違はありますが、一般には三回か四回に分施するものであります。第一回は冬期に遲効肥料（堆肥等）を多量に特に灰類を多く混入して施用致します。

第二回は開花前後に「芽出し肥」として行ふものであります。多量に施しますと熟期を遅らします作用がありますから、普通水七人糞三の割合位のを施用するのであります。又多量に施用しました場合には、徒長しまして爲に落果する事さへありますから、其の度に注意を要します。

第三回は果實收獲直後であります。樹勢を補ふ爲にするのであります。濃厚肥料を多量に施用しなければなりません。

尙芽出し肥の直後に熟期を遅すのを目的として少量を追施する事もあります。

それで一年間の肥料要素としての表を示しますと

窒素 一

磷酸 一・五

加里 二

を理想割合とする様であります。が尙石灰をも時々施用しますと肥効が顯著であります。

切 枝

果樹の種類に依りまして異なりませんが、大體芽の着際の反対側の點から、四十五度の角度で切りますのを理想として居ります。若しあまり芽から離れた點から切りますと、芽から上部は枯死します爲にその部分に害虫のかくれ場を與へる事になりますと、同時にその點から出た枝は、切口を完全に巻き込み一本の様な形をする事なく、その爲に枝折れ等を生ずる様な不利があります。又あまり芽に接し過ぎて切りますと、芽を枯死させるとか、發芽しましても充分切口を巻き込む前に少しの事で折れる事が多いのであります。

次に葡萄の事ではありますが、これは前回にも述べました様に芽と芽との中間或は、次の芽の上を枝に直角に切る必要があるのであります。

環狀剝皮

この方法は主に徒長を防いで結果枝を作る目的で行ふものでありますが、時として果實の熟期を早め味を向上させる目的で行ふ場合もあります。

桃は本法を行ふ事は不利であります。何となれば切口から樹脂が出ますので、

梨、苹果、葡萄等に行ひます。普通梅雨期がこの適期でありまして、枝の皮を環狀に一握位の幅に剝皮するのであります。然しあまり屢々行ひますと不利であります。又あまり強すぎます枝の場合の如きは、二回位は結果が好いものであります。

葡萄の場合は、前記のやうに果實の味を甘くし早熟にする等施行して有利であります。が、過用し

ますと樹勢を損ずるものであります。でこの事
理由を少し附記しますと、皮を環状に剥ぐ爲に養
分は維管束を行きますが、行つた養分の歸り途が
(韃皮部) 剥ぎ取られて居りますので行く丈で歸
りません爲養分即ち、有機質が多く蓄積するので
甘味を増して早熟するといふ事になるのでありま
す、尙よく／＼申し添へますが是を施行する樹は
強いものである必要があります。

目 傷

目の形に傷を付けるので目傷といふのでありま
して、この傷の深さは木質に達するのを度と致し
ます。

目的の一は求める枝を充分成長させる爲であり
ます。その二は結果枝を作る爲であります。で芽
の上に傷を付けますと枝がよく生育しますし、下
に致しますと結果枝を作る爲であります。この方
法の多く用いられます種類は、梨、苹果等でありま

して、特にピラミッド型の整枝の場合に求める枝
を成長させますのに用ひられます。行ふ時期は枝
を作りますには二月下旬頃。結果枝を得ます爲に
は九月頃がよいとされて居ります。

枝 折

徒長を防ぎ、結果枝を作る爲に行ふのでありま
す。が、又枝の向を變へる時等にも利用致します
方法は枝に鋸傷を付けてから折るのであります。

尙枝曲等といふ事が葡萄に行はれます。即ち下
枝の結果に勢力を付ける爲であります。

其の他横傷を付けて樹幹を肥らす等種々の取扱
及、接木の方法等記述致したいと思ひましたが、
先づこの位で本稿は擱筆することに致します。

皆さまから御丁寧な御年賀状を戴き有り難く存じます。私か
らはつい／＼失禮のまゝ打過ぎた向も多かつたことと思ひます
ので、誌上を借りて御挨拶とお禮とを申し上げます。

一 月

倉 橋 惣 三



「幸吉の旅」

東京女子高等師範學校教授 岡田みつ

七

丁度夕方のこと、加藤の家では、豊かな夕食

の支度がしてあつた。幸吉と菊嬢は、パンと牛乳のお夜食を濟ませて、納屋に行つて、彌平爺さんが、ミルク搾りをしてゐるのを見物してゐた。立屋のお千代は、今日終日、加藤のうちへ頼まれて、縫物に來てゐたのだが、思つたより仕事が涉

取つたので、ご機嫌がよかつた。お鎌さんの父親の古いマントで、幸吉のズボンと上衣を取り、その雨合羽から、ジャケツトを作り出したのだつた。お鎌の父親は、疾くに亡くなつたのだが、加藤家では、物を捨てることが無く、又、減多に他人に

遣りもしないから、古着も、いつかまた、かうして役に立つ事もあるのだつた。

お千代に針を持たせるか、裁物臺をあてがふかすると、そのお饒舌は、止めどがないので、今も夕飯のお馳走になりながら、お千代は辯じ立てゝゐるのだつた。

「お崎さん、別のお皿をくれなくてもいいよ、このお皿が大方空になつたから、こゝにバイを入れるから。お前さんも、今ぢや大家内だから、洗ひ物が一つでも減る方がいい……」

彌平さんは、あの子供達を随分可愛がつてるらしいね。……あんなに、あの子達に付き纏

はれてゐたら、用が遅れるだらうに……鈍い事
 にかげちやあの人天下無類だものね。細井彌
 平ぢやない。オツイ彌平だ。おまけに、あの人
 のお母さんの家が野呂ツといふ苗字なのさ。野
 呂の一家の人達と來たら、この田舎まはりて評
 判の愚圖で、(お崎さん、ありがたう。もう澤山
 頂戴しました。)野呂幸一郎ツていつた老爺は、
 とても鈍くてね、職は大工なんだつけれど、自
 分の家を建てるのに、二十五年かゝつたのだよ
 しかも、たいして大きな家でもないのに……
 足場が十五年掛かつて居たツてね、屋根も、す
 つかり葺き終へるまでに、四五度葺いたツて……
 ……次のを葺く頃には、始にした方が駄目になつ
 てるツてわけさ。そんなわけで、野呂の爺さん
 夫婦は、たつた二室で暮らしてゐたよ。立派な
 手摺はあるけれど、階段が出来てゐなかつたり
 床板が張つてなかつたりで……だから實、際の

話だが、おかみさんが死んだ時に、先づ、入口
 の戸を付けるまでといつておかみさんの死骸に
 防腐薬を注射したのだとさ。ずい分費用がかゝ
 るけれど、お金を出すよりは、爺さん、せき立て
 られる方が、嫌なのだから。もうお茶も澤山)。
 鈍いていへば、長老の岸田さんが、この彌
 平さんの可笑しな話をしなすつたよ。……森ヶ
 崎に、甚太ツていつて彌平さんに負けない、鈍
 い人がゐるンだとさ。或る時、閑人が、どこか
 の店の前で、饒舌つてゐると、丁度、その店か
 ら 眞ン前に見える山から、彌平さんと甚太が
 下りてくるのが見えるンだツて……すると、森
 ヶ崎の連中の誰か、この緑川の方の人にね、
 彌平と甚太と、山を下りてくる工合で、どつち
 が、餘計に鈍だか、賭をしやうと言ひ出したの
 だとさ。……それで、みんなで見えてゐると、や
 がて、彌平さんが、山の麓に大方來たときに、

急に駆け足になつて、トットトットと、かけ降りてしまつたので、みんな、驚いてしまつたのだつて。それから、悶着が起こつてね。森ヶ崎の方ぢや、甚太が、愚圖の大將だといへば、緑川の方ぢや、彌平が、愚圖にかけちやレコードだといつて、騒いでゐるところへ、岸田さんが通りかゝつたもんだから、審判官になつてくれといはれたのさ。岸田さんは、一部始終を聞いて、彌平さんの方が、餘計鈍いつていつて緑川の人に賛成した。すると、森ヶ崎の方では『どうして、さうなるんだ。甚太は、歩いて降りたのに、彌平は、終りの方を走つたぢやないか』つて、承知しない。そこで、岸田さんが、教會でお説教する時みたやうに、大真面目で、『彌平が駆け出したとすれば、とても無精で足を止めないからだ』と言つたので、「けり」がついたのだつて。(いゝえ。もう何も食べられない。どう

も御馳走さま。)

× × × × × × ×

もう寝る時刻になつて、幸吉は、自分の小さい室で、未來を占ふのだといつて、ひどく複雑つたお呪ひまじなをしてゐた。彌平爺さんが、一體、あうした事を信じる性なので、幸吉に、未來を知る術だといつて、一つ二つ、教へてやつたのだつた。その一つは、次の唄であつた。

「見えた！ 見えた！ 一とつ星、

ピカ／＼光る ひとつ星

私の願ひを きいとくれ。」

幸吉は、夏の夜の薄闇うすかみの中で、開いてゐる窓の許で真劍になつて、この唄を唱つて、自分も菊嬢もこのお家に 長く／＼いつまでも居られますやうにと願つてゐた。

「僕、自分で考へついた占ひをしよう。菊ちゃん
の淺靴を、指先の方を外へ向けて、窓の闕に載

せておかう。さうして歩いて、もう僕たちが、このお家に居られるのなら、神様に、靴の指先を、室の方へ向けて下さいと願はう。それから、僕たち、出て行かなくてはならないのだつたら、靴の向きを、そのまゝにして歩いて下さいと言はう。……この靴ちいさくつて動かしにくいから 仕合せだ。それから。彌平爺やに教はつた通りに、「ひとつ星」の唄を四度つゞげざまに、言つて、それから お祈りをして、それから 聖書の句を 暗誦して、あしたの朝、靴がどつちへ向いてゐるか見やう。」

星の歌の三度目が来ないうちに、幸吉は、口元に希望の微笑を湛へながら、熟睡してしまつた。

その晩 心地よい驟雨があつた。木蔭の多い谷間から、羊齒の茂みから、生れた微風が、干いた草原や金色の刈株の畠の上を渡つて、小一時間ほどの雨をもたらしたのだつた。

次の朝、緑の樹は 生き／＼として朝日を迎へ一枚々々の木の葉は、悦びに慄へてゐた。「まさ子」の墓石の上に 差し出てゐる林檎の大枝にはポポリンク（小鳥の名）が 一羽止まつて、聲高々と囀つてゐた。幸吉も、「自然」が 呼びかける「お早う」に喚び起こされて、床から跳ね起きて、さて見ると、あら！ 不思議！ 幸吉の守り神は幸吉のお呪ひを、自分勝手に解釋してしまつた！ 實は幸吉の窓の下に、忍冬が 這ひまつはつてゐて、それから出てゐる嫩枝が、幼い手を伸して何がな、つかまるものはと探してゐるのだつた。

その中一本、弱々しい風情をしてゐるのが、夜風になぶられた拍子に、窓の闕に、手を届かせて、菊嬢の靴に、懐かしげに、しかも、堅く／＼絡み付いてゐるのだつた。

八

仕立屋のお千代が、加藤のうちへやつて来て

お鎌に次のやうに言つた。

「私ね、もつと早く、こちらへ上る筈だつたんですが、この四五日忙しくて、足を休める暇もなかつたんです。この前こちらへ上つてから、七軒、別の家へ頼まれていつてゐましたよ。そして、あの子供達の事を、ひとが、いろ／＼言つてゐるのを。私が、まあほんとの事を話して、なんとかあの子供達をしてやつて下さいつて、頼んで置きましたが……男の兒の方を欲しいつていふ人は、一人もないんです。でも……」

すると、お鎌は、大急ぎで。

「幸吉や、良い子だから、ちよいと走つていつて木屑を少し拾つて来ておくれ。……お千代さん幸吉の前で、誰も貰ひ手がないなんて、言はなかつたつていゝぢやありませんか。あの子だつて、子供並みに感じがあるものを。」

「あの子ッたら、本を明けて、あんまり、大人しく

してゐるもんだから、傍にゐたのを、私、忘れてしまつたんです。」とお千代は、言譯をいつて、「私や、氣が弱くて、黄金虫一つだつて踏み潰せないんですから、人の氣を悪くすることなんかしませんとも。

それはさうとして、今も申したやうに、誰も、あの子を貰はうつて言はないんです。お醫師の奥さんも、女の兒の方なら、誰か着物代を出してくれれば、食料は、たゞで、引取つてもいゝつて、言ひなさるのです。とにかく、少時試めして御自分とこの、小さい娘さんの友達になれるか、様子を見てもいゝつて、尤も、その娘さんといふのが、鬼の申し子みたやうで、猩紅熱を煩つてから、なほ不良くしておまけに、耳が聾でね。今晚、歸りがけに、菊ちゃんを連れて来て上げますといつて來たのですが……お鎌さんあなた世間の人に、あれこれ言はるよりは、着物代位

出した方がいゝんでせう。私は、あの子供達は、御宅の玄關へ 出しぬけにやつて来たんで、あなただって、お崎さんだつて、まるンきり 知らない子達で、どこから来るのかも分らないんだつて、言つておきましたけれど……

幸吉は、木屑を拾つてゐた。菊嬢は、幸吉を見つけて、その方にヨチ／＼歩いていつて、幸吉の上に乗つてしまつた。それから、「お馬ハイドウ」のやうに、小さな身體を上下に、ゆすぶつて、それから、幸吉の背からまるび降りていくどか幸吉にしがみついた。それを窓から眺めてゐたお崎は、幸吉が、ぼんやりと 勢がない風をしてゐるなと思つた。菊嬢が、いくら微笑して、遊び戯れやうとしても、彼は、只すまして菊嬢の 珊瑚の首飾を弄つたり、その帽子の紐をキユツと緊くしてやるだけだつた。

お鎌は、いやに澄まして、お千代に、

「いろ／＼子供達のこと骨を折つて、下すつて御親切に、ありがたう。おまけに、私達の辯護までして下すつて。それで……お醫師の奥さんも、御親切ですけど、まだ、あゝして、幸吉の方が、うちに居るのに、急に、菊嬢を他所へ上げやうとも思ひません。それに、その奥さんの御宅へ行くと、きつと犬と猫みたやうな仲悪る騒ぎが起こつて、御迷惑でせう。あなたのお通り、あの子供達は、此の家へ来たのだから良い家に世話をしてやらなくつてはなりません。もう、二三日考へて、この土曜日の晩迄にどう取定めたか、御返事します。

お千代が門を出て去つてしまふと、お鎌は、「あんな、おせっかいな、おしやべりは、この邊に他ほかにありアしない。もう、二度と、あんな女に縫物を頼むまいと思ふけれど……、でも、頼まないと、なほ大變だから……あら！ バブテス

ト派の牧師さんが、馬車でうちの納屋の方へ行
くが、何の用があるンだらう？ お崎や、彌平
は、もう歸つて去つたとお言ひ。あ、いはずとい
い。馬をつないで、うちの玄關へ來るらしう。」

「あの牧師さんの顔が 私や、嫌ひで。」とお崎は
お鎌の肩越しにのぞいて、「あの人のお説教より
あの顔がさ。あんな青い瀬戸物みたような眼の
人が、牧師になるなんて、間違つてゐる。」とい
つた。

その牧師……南條といふ——は、いつ洗濯した
か、分らないやうな 麻あさの塵除外套ちりよけを着た、ひ
よろ長い人だが、遠慮がちに、腰掛に、腰を下
ろして、さて咳拂をして

「エ——一寸用件で お伺ひしたのですが……
……細井彌平さんが、エ——その——可愛相な子
供が……エ……お宅へ……その……迷ひ込ん
で來たが——それを、どこか、他所へ御やりに

なりたいのだ……といつて、相談に見えたので
した。そこです。御承知の通り、私共では、今
は子供が居りません——尤、以前は大勢居つた
のですが——家内が細井さんのお話に感心しま
してな、(あいに) 今日 祈禱會の司會をし
てゐますので……でなくば、家内が出ますので
すが) その風來の子供を一人預かりたいと申す
のです。……エ……まあ、申せば、一寸見習ひ
とでもいふ風にな、……それで、双方の異存が
なかつたら、ほんとに貰ひ子にして と、まあ、
いつた工合に。」

お崎は、息を詰めて 聽いてゐた。お鎌は牧師
——よしや青瀬戸物みたやうな眼の牧師でも——
が引取るといつたら、かうしか機會を 取り逃が
しはしまい。もし、さうなつたら どうしやう。
と考へてゐた。ところへ、小さい足音が聞こえ、
戸がバツと開いて、その「風來の子供達」が は

いつて來た。菊嬢の帽子は、後ろに ひつくり返り、その金髪は、一本々々、勝手次第な方角に巻き縮れてゐた。そして、菊嬢は、人形を眞逆様に

して、その片足でぶら下げてゐた。幸吉の顔の蒼味は、今は、どこへか消えて、その目は、星のやうに輝いてゐた。彼は、息もせわしく、

「小母さん、灰色の鶏ね、あれ卵を産ひんだつたの。それであんなに怒つてゐたのね。今ね、産んでゐるよ。お池の傍の赤楊の木に巢があるの。」といつた。

菊嬢が眞似をして、

(トイのチユが、お池のチヨバに。)

幸吉が、

「僕たち、お池の傍に坐つてゐたの。菊ちゃんたら、お池ン中へ入るんだもの。」

菊嬢が、

(キイちゃん、中へはいつちやつた。おニンニヨ、

おべ、ヌアしたの。キイちゃんヌエなかつたよ。)

幸吉が、

「すこししたら、鶏がね、水を飲みに出て來たの。」
(ミジユ 飲みに。)

「卵を 數へたら、大きなのが十三あつた！」

(オホチナのがジユウチャン！)

「だもんで、鶏ツたら、それをみんなかくさうとして身を脹らしてゐたよ。」

(トイッたア タクさうツて、ふく：アーしてたヨ。)

お鎌は、南條氏の方を、ぬすみ見ながら、

「さうかい。それはよかつたね。だが、今御客さんとお話してゐるんだから、お前達は、こゝに居ないでね。鶏にかまつちやいけませんよ。……で、今申さうとてゐたのですが、どうも、御親切様にありがたうございます。幸吉——男の

兒の名ですが——はあなた方お二人の御手助けになりませう。あれが近くに居てくれますと私共も仕合せです。身内でも何でもありませんが、多少責任があるやうな気がしますから。今晚、よく考へまして、明朝御返事いたします。」

「なるほど。分りました。分りました。が、その家内が欲しいと申しますのは、エ……女の兒の方なので、家内は、男の兒は望みません。」

女の兒が非常に好きなので、私も 實は その……女……」

すると、お鎌は、一つの事には きつぱり心が定まつたらしく、

「奥さんの折角のお望みですが、……お千代婆さんと、うちの彌平と二人で、村中の御家へ、菊嬢を貰へ——つて勧めて歩いたと見えますから今にあらちからも、こちらからも、あの子を貰はう——つていつて来て下さるかもしれません。」

でも、私としては、あの子は、私が貰つて置きますから、もしか誰か あなたにお尋ねしましたら、どうぞ、さう仰つて下さいませ。あなた教會の壇の上から仰つて下さつてもかまひませんが、お千代婆さんに知らせて置いても結構、間に合ひます。あの子は、こゝへ來たのですから、こゝへ置きます。」

南條さんが歸つてしまつたら、お崎が、

「お鎌さん、あなたは感心な人だ！ このごろ、あなたを少し怨んでゐましたが、みんな取消します。あんな、青瀬戸物みたやうな眼の牧師が「ありがたう」ともいはないで、あの子を連れて行かうとするんですもの！ なんて厚釜あつかましいんだらう！ あの人の奥さんだつて、子供なんか貰はないで、あの塵除けでも洗濯すればいいに！」
「そんなに、私を賞め立てなくつたつていよ。私だつて村中が世話を焼いて、あゝしろ、かう

しろつて いつたりさ、急に慈善心を起こして菊嬢を貰ふつて言ひ出したりしなければ、あの子を引取る氣にならなかつたらうから。この半月といふもの、うるさくつてく。これからは、もう 私をほつて置いてくれるだらうが。……明日は、幸吉を 都會へ連れて行つて、歸つて來てからは、門に錠を下ろして、當分 近所の人を入れない事にする。」

「幸吉を、都會へ連れて行くんですつて？」とお崎は、鋭く、さゝ返した。

「さうですよ。しかも、一刻も早い方が みんなの爲だ。——幸吉や、その戸を閉めて、納屋へゐつてゐて。お夜食まで入つて來るんぢやない。分つたかい。」

「そして、養育院へ入れようつていふんですか。」
「さうなんだよ。この邊で、あれをやる家はないもの。それはお前だつて分つてゐるだらう。」

「實は、この間から、あなたが どうなさるかと思つて待つてゐたんですが、かうなつては、私の考をお話ませう。幸吉を私が引取ります。……これから先、末の末まで。これが私の考なのです。」

お鎌は、呆れて 息をほづませた。

「私は本氣で言つてるんです。私は金持ではないけれど、一文なしでもありません。年々、この二十年の間といふもの、貯金をして來ました。何の爲だか。あなたも御存じです。だが、あれは もう、すつかり縁切れで。それもまあ結構です。してみると、私は、親もなければ子もなし、世界中に、親戚といふものがないんです。だから、誰かを世話してやりたいと思へば、誰に文句をいはれる事はない、自分の勝手です。」

お鎌は、興奮して、
「そんな事、出来るものか。出來ても私がさせな

い！馬鹿な眞似を、傍に見てゐる 私がさせません。子供が二人も、こゝゐてガタ／＼やられてたまるものか。」

「だから、二人置けなければ、どうしたらいいと思ひます？ みんなが欲しがる方の子を 他所へやつて、いらぬといふ方を、家へ置くのです。(馬鹿な奴らだ、あの子をいらぬいなんで！)それが、すべきことなのだと、私は思ひます。

一體こんどの事を考へついたのは誰です？ 幸吉でせう。菊ちやんを抱いて、あの貧民窟から連れ出したのは誰ですか？ 幸吉でせう。危険を冒してあの汚れた魔窟から、罪のない子を救ひ出して、素直に生育つ所へ連れ來やうと氣がついたのは、誰ですか？ 幸吉でせう。一體いつ、あの子が 自分の事を言ひました？ たゞの一度もあり せんよ。幸吉は、そんな子でないです。そしてあの可愛い、忠實な子は、ど

んな報いを得てゐます？ たゞ苦勞をしてゐるばかりぢやありませんか。あの子に面めんと向つて、誰もお前を欲しがるものはない。みんな、菊ちやんを欲しがつてゐるといひます。それでゐて、あの子は神様のやうな、美しい氣象だからこそ。朝から晩まで、繪本の中の天使みたやうに、機嫌よくして、ちつとも、ひねくれないのです。」

お鎌は、お崎の言葉の理に壓せられて、滔々たるその辯舌の鋒先を挫かうともしなかつた。

「そして、世間の人は、一時、菊嬢を引取らうつて騒いでゐる、玩具のつもりで。たゞ髪が巻き縮れてゐるから、色が白いから、女の見だから(女の見なら、どこがいゝんだ!)ツていふ譯で。そして、幸吉の方は、虫けら同様に、足の下に踏みにじられてゐるんです！ こんどのこの事に、神様の導きがあるのが、あなたに分りませんか。世の中には、奇蹟といふものもありま

すよ。あの子が、どういふわけで、村中の他の家を通りすぎて、この家へ来たのですか。あの子が導かれて来たのではありませんか。人に

さくまでもない。聖書を見るまでもない。さうときまつてゐます。あの子は、この家に、食物が澤山ある、大きなガランとした家で、納屋には、貯へものがあり、銀行には預金があり、家内には、たつた二人淋しい女が、夏は蠅を追ひ、冬は 爐に薪をくべるより 外の用事も無い、とどうして知りませう。あの子は、知らないでも、神様が 御存じだつたのです。神様は、私達に「召され選ばれる」といふ機会を與へやうと思し召したのです。だから、私達は、神様のお使者に背を向けて、追ひ出すわけには行きません。神様は、あの二人を 一緒にお置きになる思召です。さもなくて、あんな風に始をなさりはしますまい。」世間では、私達を情に脆い、馬鹿の一対だつて笑ふだらう。もし

て、村中の「見もの」になるだらう。」と お鎌は、長い間黙つてゐた末に力なくいつた。

「なつたつていゝぢやありませんか。」とお崎は、頑として答へた。村の人の見ものになれば、また、神様の「見もの」にもなります。……あ、もう言ふ必要はない、私は、決しました。あなたと私が、三十年一緒に暮して、一度も 言ひ争ひをした事もなく、ずいぶん退屈でしたが、それでも、あなたが 出て行くと仰らない限り、私は、他所へは行きません。私はまだく働けるから、あの子を引取つて、あの子が一番大事に思つてゐるもの、傍に置いてやります。もし十四室もあるこの家が狭いとでもいふのなら、幸吉と私は、あの家——私が結婚したら下さると仰つた——へ行きます。——今夜 幸吉が寝る時話してやらう。あの子、この頃、心配してやつれてゐます。眼玉が ガラスで出来てゐる人にだつて分るくらゐに。」(つゞく)

定規文注

告 票

- 一、幼稚園及び小学校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
 - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新聞書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會**
- 一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵便代用の場合には總て一割増）
 - 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 - 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

告 廣

特等面一頁 金參拾圓 二面一頁 金貳拾圓
 一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷
 神田區南甲賀町八品田與松に御申下下さい。

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

不 許 複 製
 禁 轉 載

編輯兼發行所 倉橋惣三
 東京市麴町區飯田町二丁目五十番地
 印刷者 須藤 紋一
 印刷所 京華社印刷所
 東京市麴町區飯田町二丁目五十番地

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金貳拾錢の割にて御拂込下さい）

昭和六年一月十二日印刷納本
 昭和六年一月十五日發行
 幼兒の教育 第三十一卷第一號

生徒募集

一、本科 七十名
一、研究科 若干名

右募集ス

出願期日 三月一日ヨリ三月廿五日迄

規則入用ノ方ハ二錢切手封入申込マルベシ

東京市外大井町原五二〇八

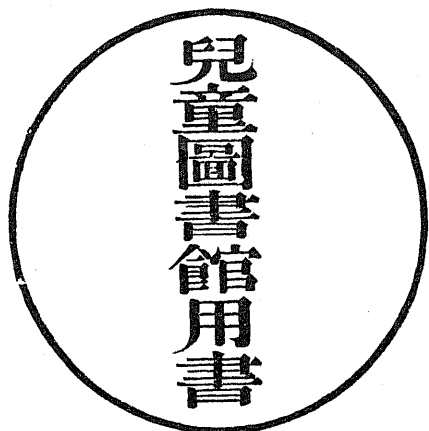
東京昭和保姆養成所

所長 土川五郎

顧問兼講師 倉橋惣三

成城小學校訓導

奧野庄太郎著



東西幼年童話新選

梅櫻菊楓 卷一 尋常 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十 卷十一 卷十二 卷十三 卷十四 卷十五 卷十六 卷十七 卷十八 卷十九 卷二十 卷二十一 卷二十二 卷二十三 卷二十四 卷二十五 卷二十六 卷二十七 卷二十八 卷二十九 卷三十 卷三十一 卷三十二 卷三十三 卷三十四 卷三十五 卷三十六 卷三十七 卷三十八 卷三十九 卷四十 卷四十一 卷四十二 卷四十三 卷四十四 卷四十五 卷四十六 卷四十七 卷四十八 卷四十九 卷五十 卷五十一 卷五十二 卷五十三 卷五十四 卷五十五 卷五十六 卷五十七 卷五十八 卷五十九 卷六十 卷六十一 卷六十二 卷六十三 卷六十四 卷六十五 卷六十六 卷六十七 卷六十八 卷六十九 卷七十 卷七十一 卷七十二 卷七十三 卷七十四 卷七十五 卷七十六 卷七十七 卷七十八 卷七十九 卷八十 卷八十一 卷八十二 卷八十三 卷八十四 卷八十五 卷八十六 卷八十七 卷八十八 卷八十九 卷九十 卷九十一 卷九十二 卷九十三 卷九十四 卷九十五 卷九十六 卷九十七 卷九十八 卷九十九 卷一百

東西童話新選

天 地 人 文 卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十 卷十一 卷十二 卷十三 卷十四 卷十五 卷十六 卷十七 卷十八 卷十九 卷二十 卷二十一 卷二十二 卷二十三 卷二十四 卷二十五 卷二十六 卷二十七 卷二十八 卷二十九 卷三十 卷三十一 卷三十二 卷三十三 卷三十四 卷三十五 卷三十六 卷三十七 卷三十八 卷三十九 卷四十 卷四十一 卷四十二 卷四十三 卷四十四 卷四十五 卷四十六 卷四十七 卷四十八 卷四十九 卷五十 卷五十一 卷五十二 卷五十三 卷五十四 卷五十五 卷五十六 卷五十七 卷五十八 卷五十九 卷六十 卷六十一 卷六十二 卷六十三 卷六十四 卷六十五 卷六十六 卷六十七 卷六十八 卷六十九 卷七十 卷七十一 卷七十二 卷七十三 卷七十四 卷七十五 卷七十六 卷七十七 卷七十八 卷七十九 卷八十 卷八十一 卷八十二 卷八十三 卷八十四 卷八十五 卷八十六 卷八十七 卷八十八 卷八十九 卷九十 卷九十一 卷九十二 卷九十三 卷九十四 卷九十五 卷九十六 卷九十七 卷九十八 卷九十九 卷一百

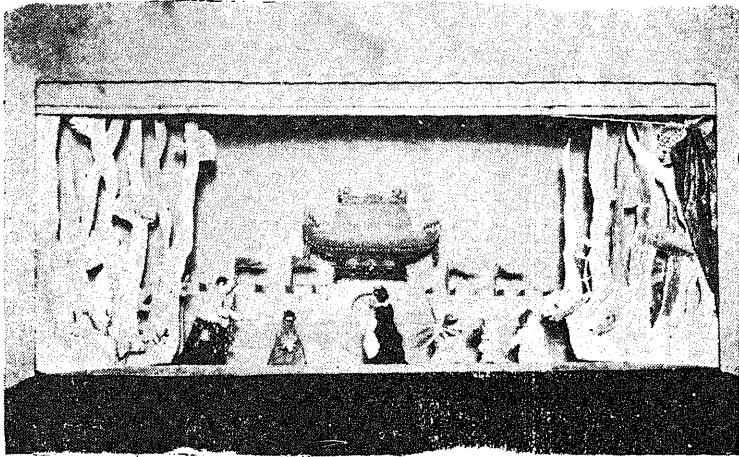
折角子供の爲にかゝれたグリムやアンデルセンの童話等も其翻譯や翻案が難詰な爲結局大人の讀物となる事は誠に遺憾です童話は飽まで子供の知能、子供の情緒、子供の徳性を培ふ源泉たる筈です。本童話新選は徹頭徹尾、子供の爲に用意された讀物で、極く平易な文章と用字で、特に子供の讀物として適切な活字と組方を研究し、たとひ其一字一句にも子供を對象としての親切さが満ち溢れてゐます。小館は曩に世界著名の童話を紹介すべく學習室文庫を發刊し全國學校から多大の賞讃を得ましたが、本童話新選は右文庫中最も兒童に親炙せるもの數十篇宛を撰び、優雅な装幀堅牢な美本として新たに提供します。何卒各小學校、兒童圖書館並に一般家庭の御必備を希ひます。

各壹冊の定價と體裁
各卷 菊判全一冊宛
各卷 總クロース洋綴
各卷 紙數五百頁宛
各卷 插畫四十宛
各卷 彩色畫四葉
各卷 定價二圓宛
各卷 送料廿七錢宛

東京市牛込區中野文館書店

電話三三八七番

「浦島太郎」の實演



人形芝居

● 幼児保育の一課程として「人形芝居」を加へねばならぬといふ聲は澎湃として起りつつあります。
 ● 倉橋教授は多年「人形芝居」に就て御研究遊ばされ、「お茶の木人形座」の名で、大正十二年以來實行して居られます。
 ● 型にはまつた幼稚園を、眞に子どもの世界らしい幼稚園にする爲めに「人形芝居」の勤むる役割は偉大です。

● 最近實演

今回の全国保育大會
 上野 松坂屋
 本年幼稚園協會總會
 女部 夏期講習會
 昭和保姆養成所講習會
 昭和保姆協會講習會
 佛敎保育協會講習會
 (お茶の水先生方により)
 (世界お茶の水先生方により)
 (お茶の水先生方により)
 (同右)
 (フレイベル社員により)

今回フレイベル館は、倉橋教授の御指導を得て「人形芝居」の舞臺及び同人形を製作發賣致します。脚本も出版されました。

舞 台 一 台 金 二 拾 八 圓

(備考)

人 形

お葉子の家 三六二個
 猿と蟹のダンス 四四二個
 舌切りの雀 四四二個
 花の法師 四四二個
 浦島太郎 四四二個
 七正の仔山 六六二個
 天正の仔山 六六二個
 狗の仔山 六六二個

一組拾七圓

共通に使用の出来る人形がありますから
 一組の合計は
 三十四型
 であります。
 (人形一個金五拾錢)

脚 本

倉橋惣三監修
 爲の幼兒の

人形芝居脚本

一册 金五十錢

東京・神田・一ツ橋通・教育會館内

フレイベル館

東京一六四〇等
 電話九段三二七番

昭和四年五月十五日第一種郵便物認可
 (毎月一回十五日發行)

昭和六年一月十二日印刷納本
 昭和六年一月十五日發行

定價三十五錢